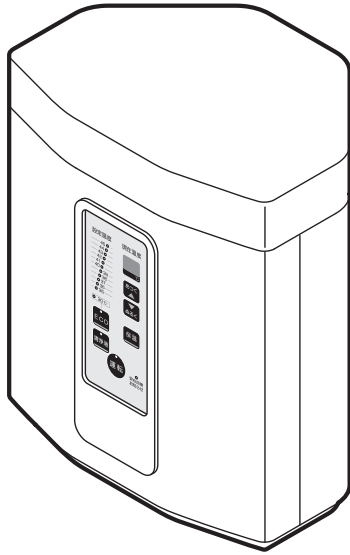


循環温浴システム コロナホームLC

CKL-200S

浴水清浄液自動点滴システム搭載

取扱説明書



型式：CKL-200S

保証書別添付

- このたびはお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- お使いになる前にこの取扱説明書を必ずよく読み読んで後はいつでも見られるように大切に保管してください。
- 正しく使用されなかった場合の製品の故障・事故について、当社は一切責任を負いませんのでご了承ください。
- ご使用前に本機の各部に異常のないことを必ず確認してください。また、各部に亀裂、破損、へこみ、曲がり、ゆるみなどの異常が生じた場合は使用しないでください。
- ご購入時には「保証書」「取扱説明書」を必ず受け取って大切に保管してください。お届けされていない場合は販売店にご請求ください。
- 工事方法を選定するときは設置工事業者とよく相談の上、お決めください。

もくじ

1. 安全のために必ずお守りください	1
2. 各部のなまえ	4
2-1. 本体	4
2-2. 泡出しユニット	4
2-3. フィルターセット	5
2-4. 設置台	5
2-5. 風呂ふた	5
2-6. 操作パネル	6
2-7. 付属品	7
3. 設置のしかた	8
4. 使用前の準備	19
4-1. 浴槽に水を入れる	19
4-2. ろ過材をすすぎ洗いのする	19
4-3. 本体にろ過材をセットする	19
4-4. よび水を入れる	20
4-5. 本体に浴水清浄液を入れる／補給方法	21
4-6. 浴水清浄液の自動注入を設定する	22
5. 使用方法	23
5-1. 運転の開始と停止の方法	23
5-2. エラー表示のリセット方法	23
5-3. 浴水温度を変更する	23
5-4. ECO運転	23
5-5. 保温	24
5-6. 浴水清浄液の自動注入と手動注入	24
5-7. 浴水清浄液の自動注入を停止する方法	24
5-8. 浴水清浄液の補給お知らせ	25
5-9. 気泡水流	25
6. 点検・その他	26
6-1. 日常の点検	26
6-2. 日常のお手入れ	26
6-3. 安心点検のお知らせについて	26
6-4. トップフィルターの洗浄	27
6-5. ろ過材とろ過タンク底網の洗浄	28
6-6. 配管洗浄(洗浄手順)(すすぎ手順)	29
6-7. 長期間使用しないとき	31
7. エラー表示	32
8. おかしいと思ったら	33
9. 保証とアフターサービス	35
10. 仕様	36



1. 安全のために必ずお守りください

※ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。





※ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

※注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
 注意	人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容。


絵表示の意味

	 記号は禁止の行為を示しています。 左図のように図の中や近傍に具体的な禁止内容を描いて示します。 (左図は分解禁止を意味しています)
	 記号は強制または禁止する行為を示しています。 左図のように図の中や近傍に具体的な禁止内容を描いて示します。 (左図は必ずアース線を接続する意味を示しています)


お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告


設置及び移設工事について

- ご自分で設置工事及び移設工事をしないでください。工事に不備があると事故の原因になります。
(設置工事及び移設工事は販売店にご依頼ください。)
- アース工事がされていること。アースが接続されていないと感電の原因になります。
(アース工事は電気工事士の有資格者が行ってください。法令によりD種接地工事が義務づけられています。)
- ポリエステル系人工大理石浴槽など一部の浴槽には、浴水を長時間ためて継続使用すると浴槽表面にふくれ、荒れ、変色が発生する場合があります。


異常時

- 使用中に異臭がする等の異常を感じたときは、運転を停止して漏電保護プラグを抜いてください。
(異常のまま運転を続けると、感電、火災、故障の原因になります。)

分解禁止

- 本製品の分解、改造はしないでください。
(故障や誤作動の原因になります。)
- 電源コードを途中で切断したり、継ぎ足したりしないでください。
(断線や接触不良などにより、感電、火災、故障の原因になります。)

使用上

- ご使用の前に「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
誤った取り扱いをすると人身事故や、家財の損害に結びつく恐れがあります。
- 入浴中にフィルターセットを取り外さないでください。
- 入水口、ジェットノズル、浴水清浄液の出口をふさいだり、手や足などを入れたりしないでください。
- 入水口、ジェットノズル付近には潜らないでください。(特に子どもには注意してください。)
- 50℃以上の熱湯は使用しないでください。
- 入浴以外の目的で使用しないでください。
- 本製品の使用中は1日中浴槽に水が満たされています。使用しないときは浴槽に風呂ふたなどをし、子どもの転落にくれぐれもご注意ください。
- 長い髪の毛はたばねるなどし、入水口に髪の毛が吸い込まれないよう注意してください。
- 泡出しユニットに接続しているホースを外さないでください。
- 浴槽内のホース部分は固定しないでください。
- 浴槽の金属部にステンレス製の部品以外使用しないでください。排水口やチェーンなどの金属部は、水質によりメッキがはがれて錆びることがあります。

1. 安全のために必ずお守りください

警告

浴水清浄液について

- 浴水清浄液を使用して肌に合わないときは使用を中止してください。
- 目や口に入らないように注意してください。入った場合は流水で洗い流してください。
- 本体に補給するときは付属の計量カップを使用してください。
- 本体底の浴水清浄液出口をふさがないでください。故障の原因になります。
- 浴槽の材質によっては浴槽が変色する場合があります。
- 本製品の専用品です。他の用途に使わないでください。
- 洗剤等と混ぜて使わないでください。
- 本体に補給するときは清浄液ランプがゆっくり点滅しているときに行ってください。
ランプが消灯または点灯しているときに補給すると清浄液タンクの注ぎ口からあふれ出る場合がありますので注意してください。



注意

用途

- 本製品は浴水の清浄、保温以外の目的に使用しないでください。また、浴水は飲用等の入浴以外の目的には使用しないでください。
- 本製品は一般家庭専用で、ろ過能力はのべ入浴人数4人/日を基準とし、浴槽容量は最大300リットルです。
- 多人数で使用した後は清浄液スイッチを押して浴水清浄液を追加注入してください。
- 使用する水は水道水及び飲用可能な井戸水を使用してください。

漏電保護プラグと電源コード

- 漏電保護プラグはコンセントにしっかり差し込んでください。
- 濡れた手で漏電保護プラグに触れないでください。
- 漏電保護プラグに水をかけないでください。
- 漏電保護プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 電源コードをたばねたり、無理に曲げたりドアなどに挟んで使用しないでください。
(断線や発熱で事故、故障の原因になります。)
- 漏電保護プラグと電源コードが破損及び故障した場合の交換修理は、危険を防止するため電気工事に資格者に依頼してください。



雷のとき

- 雷のときは早めに運転を停止して漏電保護プラグを抜いておいてください。
- 雷のときはなるべく本体に触れないでください。



入浴時

- 本体に表示される浴水温度は目安ですので実際の温度と異なる場合があります。
入浴時には必ず湯加減を確かめてから入浴してください。
- 入浴するときはかけ湯をし、身体が汚れている場合はよく洗ってから入浴してください。
- 浴槽にタオルを入れないでください。タオルが入水口に詰まり、故障の原因となることがあります。
- 浴槽のお湯は飲まないでください。
- 体に傷があるときは、傷口を浴槽内に浸けないでください。
- 入浴中はフィルターセットを取り外さないでください。



点検・お手入れ

- 本製品の点検・お手入れは必ず定期的に行ってください。
- トップフィルターは毎日洗浄してください。
- 浴水の交換は1週間に1度程度行ってください。浴水を交換するときは浴槽の掃除も行ってください。
- ろ過材は摩耗などにより減少したら補充、または交換してください。
- 配管の洗浄は6か月に1度、専用洗剤で行うことをお勧めします。同時に浴槽の掃除もしてください。
- 循環風呂釜のパイプは市販の風呂釜洗浄剤でこまめに掃除してください。なお、風呂釜や浴槽の掃除のときは本製品の運転を停止し、浴水を抜いてから行ってください。

1. 安全のために必ずお守りください

お願い

長期間使用しないとき

- 長期間使用しないときは浴水清浄液を取り除き、浴水清浄液タンク、ろ過材、トップフィルターを洗浄し、配管洗浄を行ってからできるだけ内部を乾燥させた後、保管してください。

浴水の清浄促進のために

- 一度に多数の方が入浴された場合は、浴水が濁ることがあります。
- 浴水が濁った場合は自動注入を数日間停止するか、浴水を入れ替えてください。
- 身体に付いた石けんやシャンプーなどは浴水の濁りの原因となりますので、よく洗い流してください。
- 塗り薬や薬を常時服用されている方やアトピー性皮膚炎の方などが入浴する場合、トップフィルターを頻繁に洗浄してください。

洗剤、入浴剤の使用

- 浴槽内でシャンプー、洗剤を使用しないでください。
- 入浴剤（果物・薬草・温泉水）等を使用するときは本製品の運転を停止した状態でお使いください。運転を再開するときは入浴剤が入った浴水をすべて捨て、新しい浴水に入れ替えてから運転を再開してください。

付属品

- 付属品は本製品指定以外のものは使用しないでください。

【設置工事のご注意】

⚠ 警告

設置について

- ポリエステル系人工大理石浴槽など、一部の浴槽には浴水を長時間ためて継続使用すると、浴槽表面にふくれ、荒れ、変色が発生する場合があります。
- 施工方法（設置場所・穴開け場所等）については事前にお客様とご相談の上、決定してください。
- 本機は電気工事が必要です。電気工事士の資格者（第二種以上）が施工してください。（工事に不備があると感電や火災の原因になることがあります）
- 改良のため仕様の一部を予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

設置条件

- 家庭用の浴室内に設置してください。（本機は浴槽コーナー設置タイプです）
- 水漏れがあっても支障のない場所に設置してください。
- シャワー等の水が直接かからない場所に設置してください。
- 水平で安定した場所に設置してください。
- 浸水の恐れのある場所には設置しないでください。⊘
- 落下物の恐れのある場所には設置しないでください。⊘
- 浴槽の容量は最大300リットルまでです。

電源について

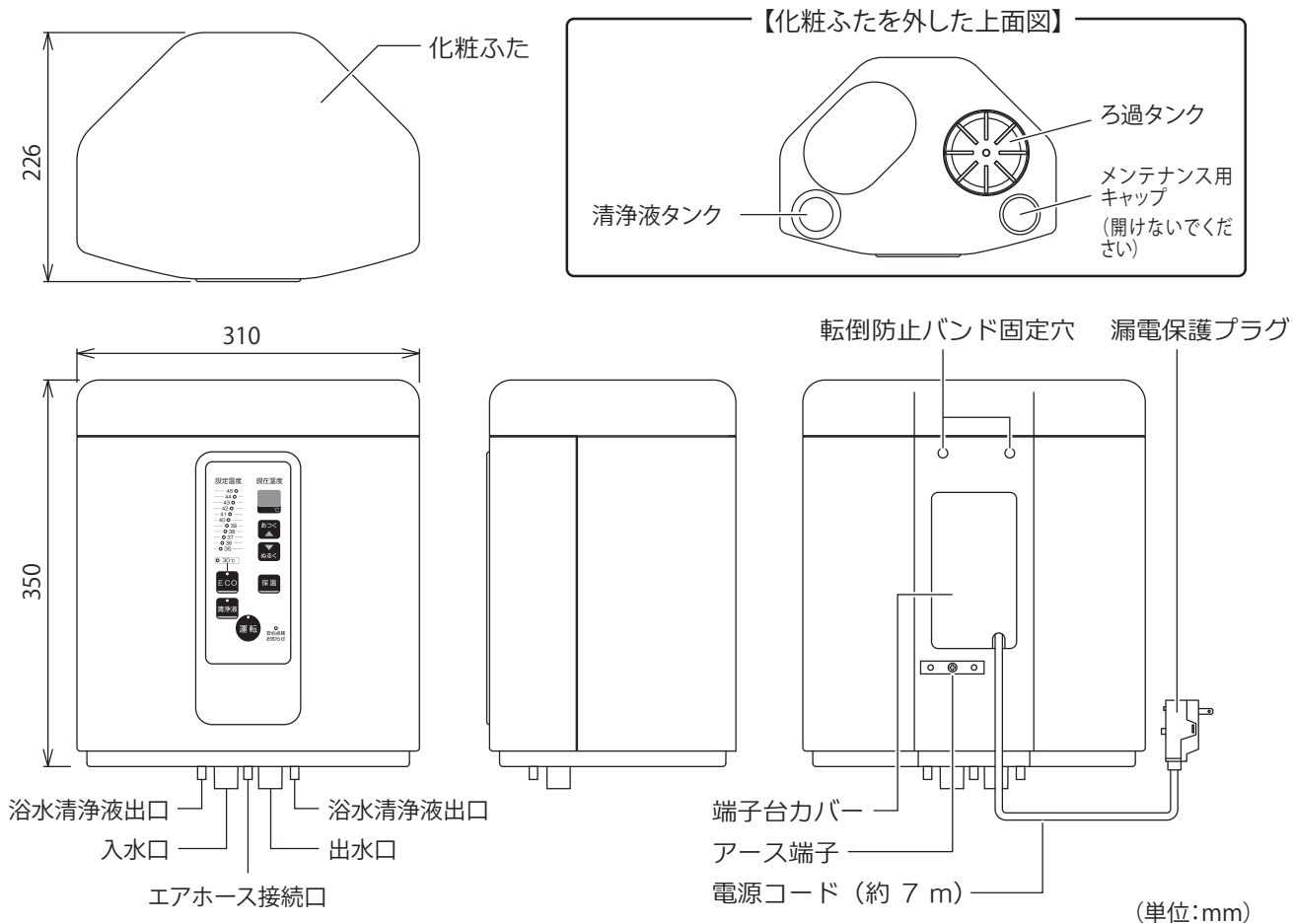
- 本体に表示してある電源（電圧、周波数）を使用してください。⊘
- 専用電源を設け、他の機器とのタコ足配線をしないでください。⊘

アースの接続

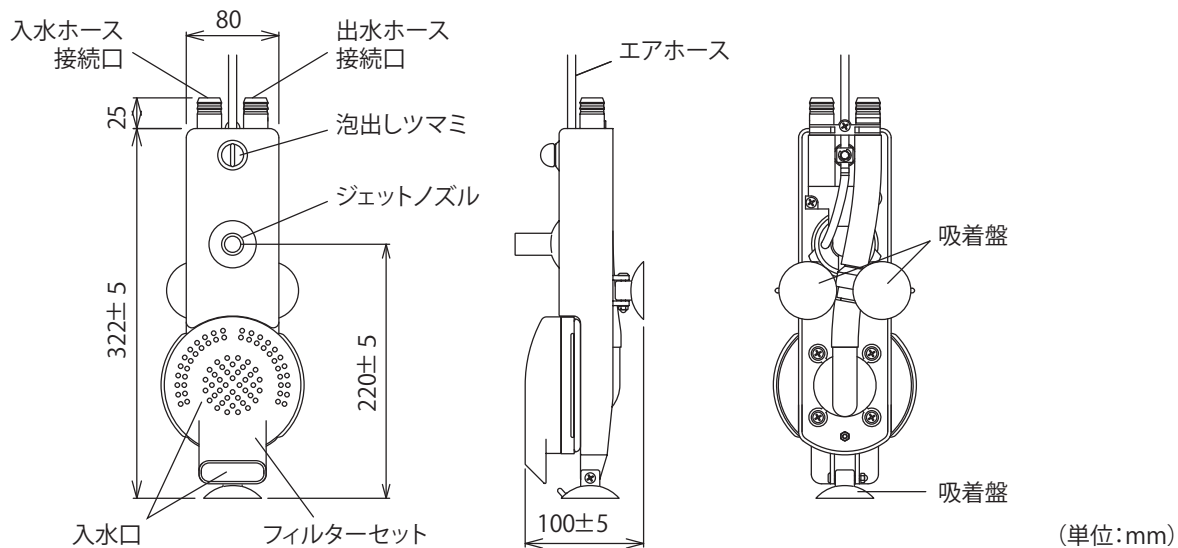
- 必ずアースを接続してください。
- アース線はガス管、水道管、電話のアース線などには接続しないでください。⚡

2. 各部のなまえ

2-1. 本体

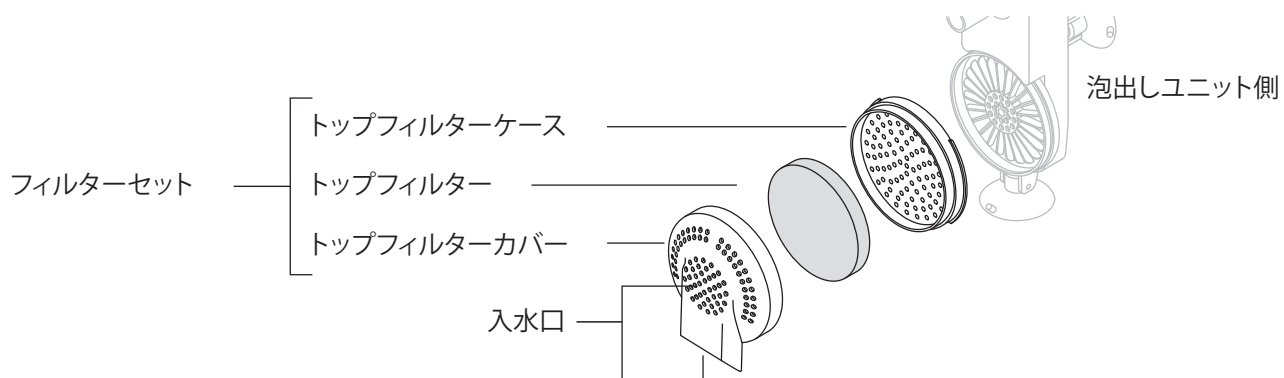


2-2. 泡出しユニット

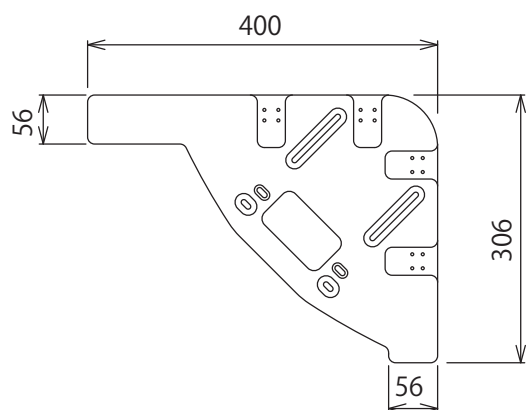


2. 各部のなまえ

2-3. フィルターセット

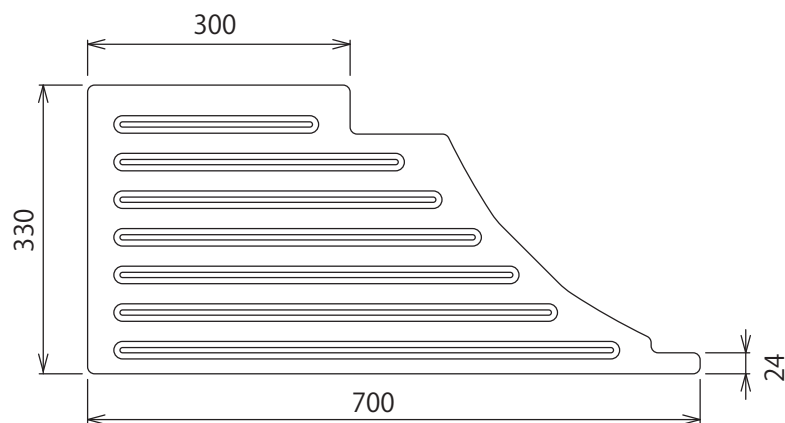


2-4. 設置台



(単位:mm)

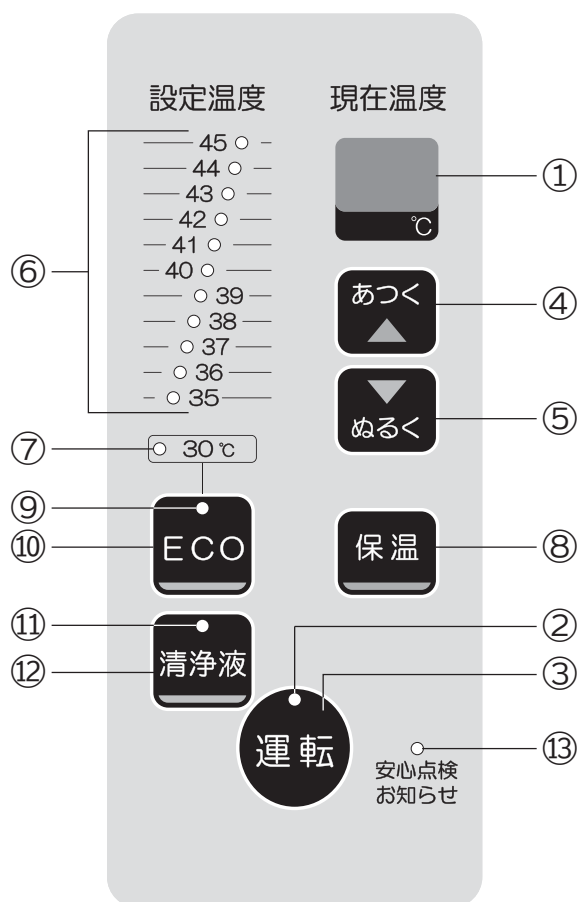
2-5. 風呂ふた



(単位:mm)

2. 各部のなまえ

2-6. 操作パネル



① 浴水温度表示部 (赤)
運転中：浴水温度を表示
エラー時：エラーを表示
浴水加温中：コロン点灯 (右隅)

② 運転ランプ (緑)
運転中：点灯
運転停止中：消灯
エラー時：点滅

③ 運転スイッチ
運転を開始したり停止したりするスイッチ
エラーをリセットするスイッチ
運転を停止するときは1秒以上長押しする

④ あつくスイッチ
浴水の設定温度を上げるスイッチ
(一度押しと設定温度が1℃上がります)

⑤ ぬるくスイッチ
浴水の設定温度を下げるスイッチ
(一度押しと設定温度が1℃下がります)

⑥ 設定温度ランプ (赤)
浴水の設定温度を表示します (単位：℃)
保温「切」時、ECO運転中：すべて消灯

⑦ 30℃ランプ (緑)
ECO運転中：点灯
設定温度運転中、保温「切」時：消灯

⑧ 保温スイッチ
保温機能の動作/停止を設定します
保温「入」時：設定温度ランプ点灯
保温「切」時：設定温度ランプ消灯

⑨ ECOランプ (緑)
ECO運転中：点灯
設定温度運転中、保温「切」時：消灯
(保温切時はECO運転しません)
浴水清浄液の自動注入が停止しているときに点滅します

⑩ ECOスイッチ
浴水温度を30℃で保温運転するときに押します
浴水清浄液の自動注入を停止するときは2秒以上押します
(浴水清浄液の自動注入を再開するときは運転スイッチを入/切し、自動注入時刻を再設定してください)

⑪ 清浄液ランプ (赤)
消灯時：浴水洗浄液は半分以上残っています
点灯時：浴水洗浄液は残り約半分です
ゆっくり点滅：浴水清浄液をタンクに補給してください
早い点滅：浴水清浄液を浴水に注入中です

⑫ 清浄液スイッチ
浴水清浄液を手動で注入するスイッチ
(一度押しと1時間以内は注入できません)
※保温スイッチを押しながらこのスイッチを押すと、
浴水清浄液の自動注入時刻が設定できます。

⑬ 安心点検お知らせランプ (オレンジ)
点灯または点滅したら点検が必要です
販売店までご連絡ください

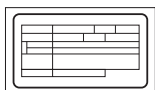
2. 各部のなまえ

2-7. 付属品

※は消耗品です



取扱説明書
(1部)



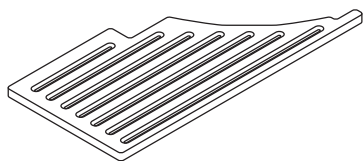
保証書
(1枚)



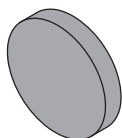
漏斗
(1個)



計量カップ
(1個)



風呂ふた
(1個)



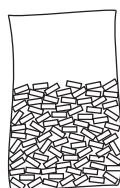
トップフィルター
(2枚)
※



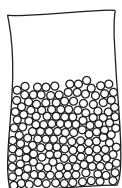
ろ過タンクふたパッキン
(装着品と別に1個)
※



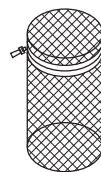
浴水清浄液
1000 mL
※



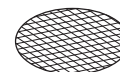
ろ過材
活性炭
(2袋：内1袋は交換用)
※



ろ過材
セラミックボール
(1袋)
※



ろ過材ネット
(2袋)
※

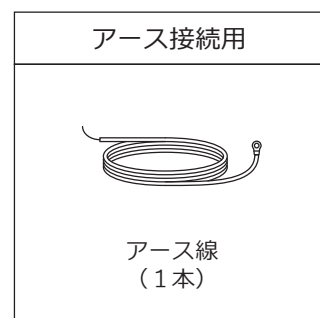
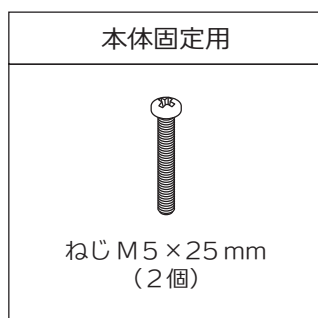
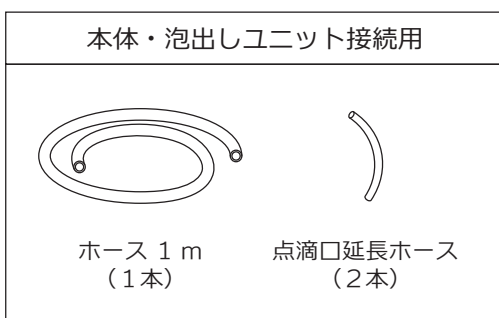
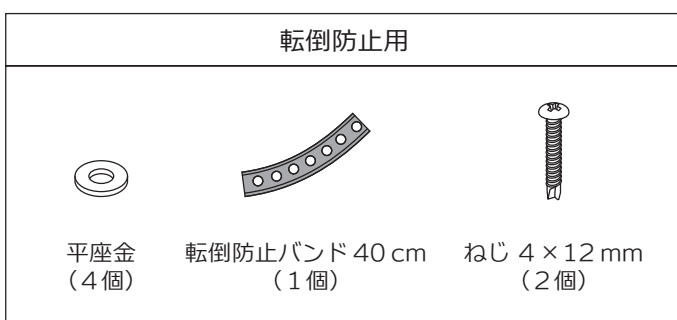
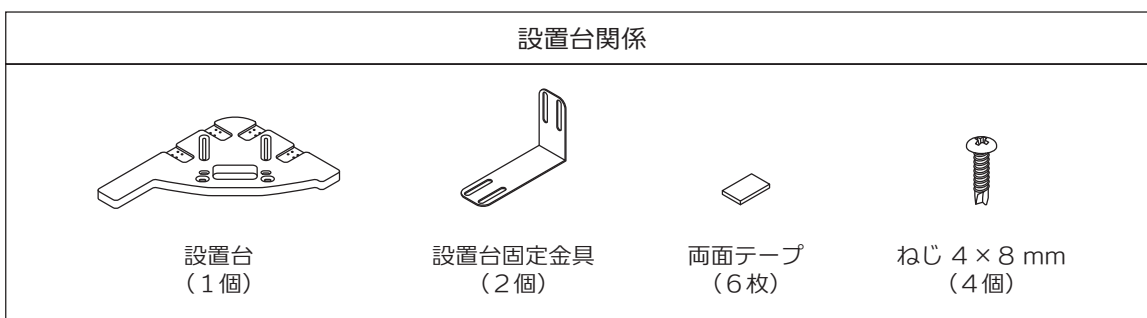
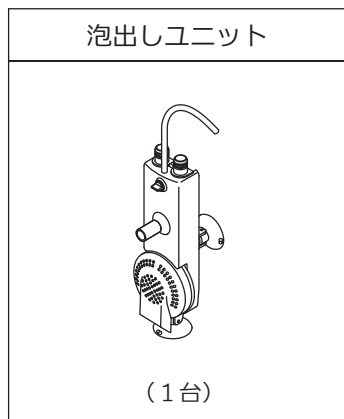
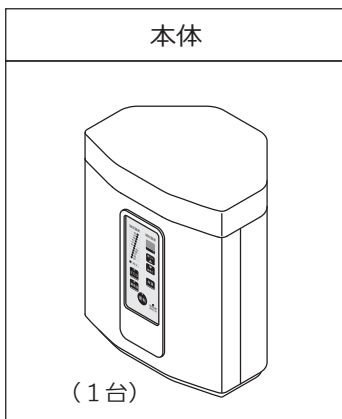


ろ過タンク底網
(1個)

実物と一部形状が異なる場合があります。

3. 設置のしかた

3-1. 設置工事用部品



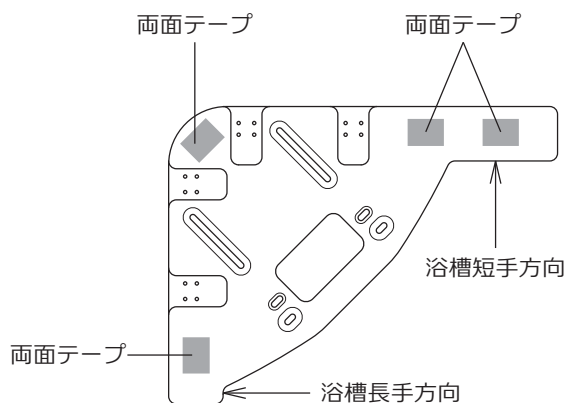
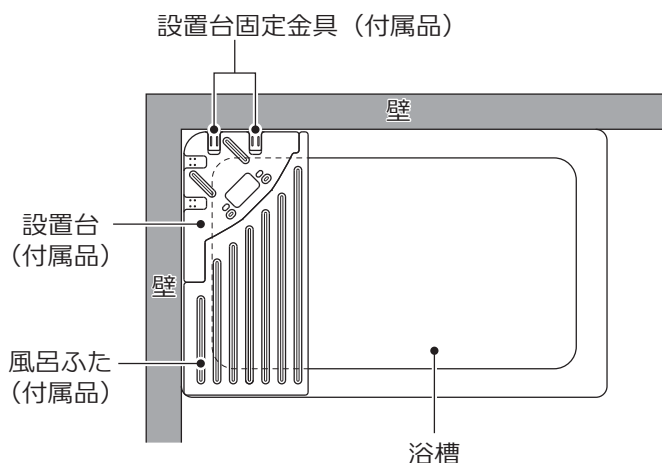
3. 設置のしかた

3-2. 設置台の取り付け

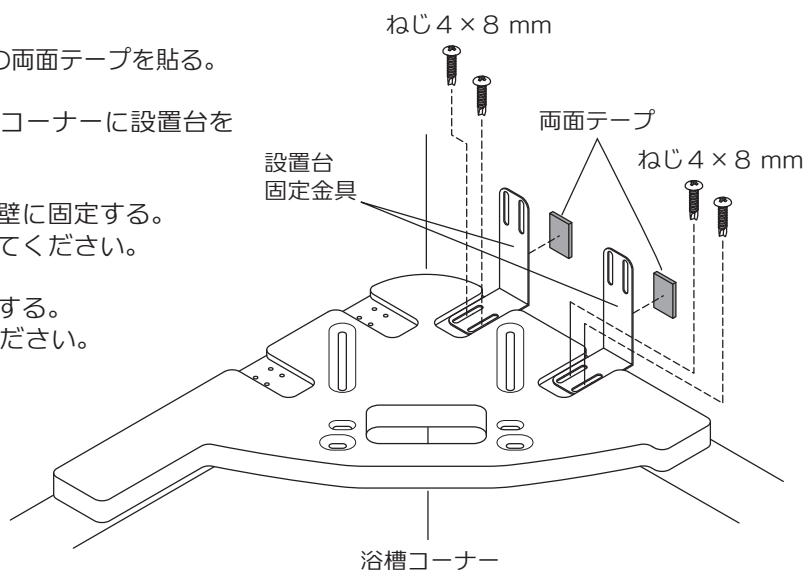
⚠ 警告

- 本機は浴槽コーナー設置専用です。設置するときは必ず、壁面側の浴槽コーナーに付属の設置台を取り付けてください。付属の設置台以外は使用しないでください。
- ガタつきや傾きの大きなところには設置しないでください。
- 設置場所の浴槽コーナーと壁面は、事前に汚れや水気を取り除いてから作業を行ってください。（しっかり設置できていないと本体の落下により、本体の故障・ケガ・感電の原因になります）

- ①壁面側の浴槽コーナーに設置台を仮置きして位置決めを行う。
- ・設置台に裏表はありません。設置状況に合わせてご利用ください。
 - ・本誌では下図の浴槽に設置する例として説明しています。



- ②位置が決まったら接地面側の設置台に付属の両面テープを貼る。
- ③両面テープの剥離紙をはがしてから浴槽コーナーに設置台を置き、2～3分押さえつける。
- ④壁面側の設置台固定金具を両面テープで壁に固定する。
- ・金具はどちらか一方の壁に2か所固定してください。
- ⑤設置台側の設置台固定金具をねじで固定する。
- ・付属のねじ（4×8 mm）で固定してください。



⚠ 注意

両面テープの粘着力は、貼り付けてから約24時間以降に発揮し始めます。それまでは無理に引っ張ったりはがしたりしないでください。

3. 設置のしかた

3-3. アース工事

- 必ずアース工事を行ってください。
- 付属のアース線をコンセントのアース端子に接続するか、アース棒（市販品）を地面に打ち込んでから本体後側のアース端子に接続してください。
- アース接続作業は次の要領で正しく行ってください。

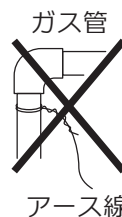
⚠ 警告



アース工事は電気工事士の有資格者が行ってください。
法令によりD種接地工事が義務づけられています。
(より安全をはかるため接地抵抗は100Ω以下にしてください)



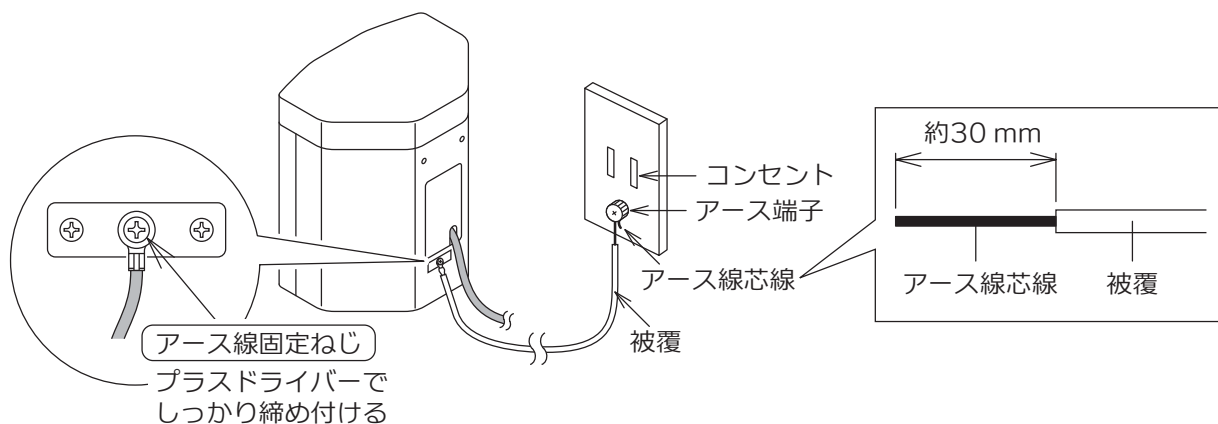
<間違った例>



アース線はガス管、水道管、電話のアース線などには接続しないでください。

■アース線（付属品）を使用する場合

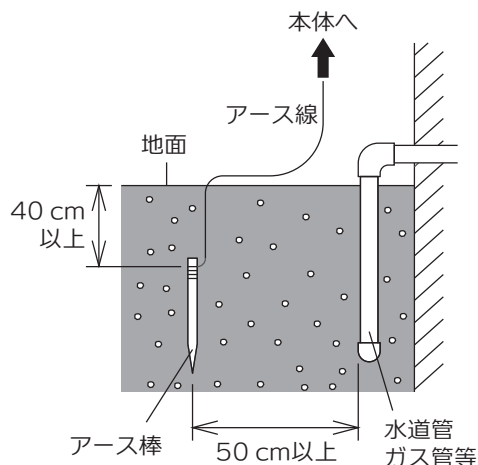
- ①本体背面のアース線固定ねじを一度外し、アース線の丸端子にアース線固定ネジを通してから本体に締め直して固定する。（プラスドライバーでしっかり締め付けてください）
- ②アース線的一方をコンセントのアース端子に接続する。



■アース棒（市販品）を使用する場合

- ①できるだけ日陰など湿気が多い地面を選ぶ。
- ②地面を約40 cm以上掘る。
- ③アース棒を打ち込む。
- ④本体背面のアース端子に、アース線固定ねじでアース線を接続する。

- アース棒の上端から地面まで、40 cm以上になるよう打ち込んでください。
- 近くに水道管、ガス管が埋まっている場合は50 cm以上離してください。
- アース線固定ねじはプラスドライバーでしっかり締め付けてください。



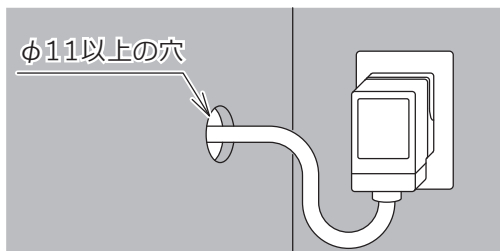
3. 設置のしかた

3-4. 電源コードを浴室の外へ引き出す

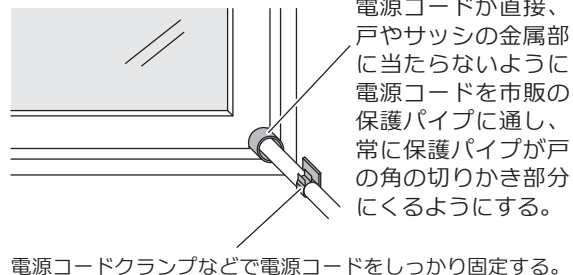
■p.12の手順で本体から漏電保護プラグ付電源コードを取り外し、下記工事例の穴に電源コードを通してから本体に再接続してください。

< 工事例 >

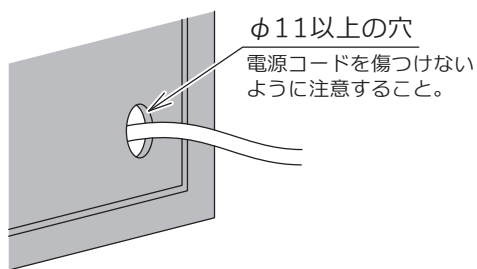
例1. 壁に穴を開ける場合



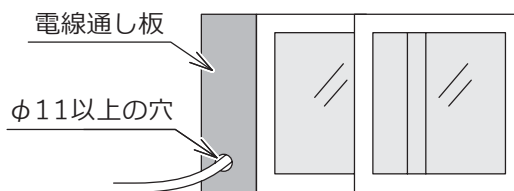
例3. 戸の角を切りかいて電源コードを通す場合



例2. 戸に穴を開ける場合



例4. 窓に電線通し板を設け、屋外のコンセントを利用する場合

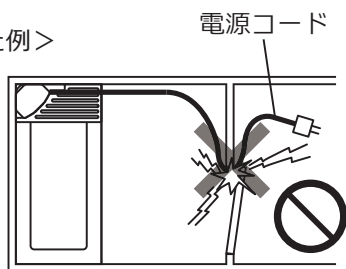


⚠ 注意

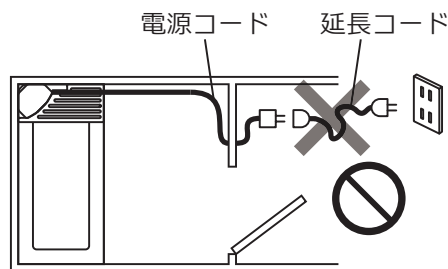
●電源コードを浴室の外へ引き出すときは以下のことに注意してください。

1. 電源はAC 100 Vです。
2. 電源は専用回路 (15 A以上) でご使用ください。また、他の機器との兼用はおやめください。
3. コード貫通部が金属等で、電線コードに傷が付く恐れがある場合は保護パイプ、塩ビパイプ等 (いずれも市販品を購入してください) を使用して電源コードを保護してください。
4. 電源コードは市販のコード押さえでしっかり固定してください。
5. 屋外にコンセントを設置する場合は、屋外防雨型プラスチックボックスを取り付けてください。
6. 戸やドア等に電源コードを挟み込まないでください。またタコ足配線や延長コードは使用しないでください。
7. 延長コードを使用した場合、電圧降下により装置の性能が低下することがあります。また、コードの種類によっては発熱し、火災等の原因となる恐れがあります。
8. 電源コードをむやみに切断、及び再接続しないでください。

< 間違った例 >



電源コードを挟まない



タコ足配線や延長コードを使用しない

3. 設置のしかた

3-5. 本体から電源コードを取り外す方法

■ 次の作業を行うときは、コンセントから漏電保護プラグを抜いた状態で行ってください。

- ① 端子台カバーのねじ（1本）を外してから、端子台カバーを本体から取り外す。
- ② 電源コードを固定しているナイロンクリップの固定ねじ（1本）を外す。
- ③ 右図点線内の端子ねじ（2本）のみ外し、電源コードの白色線と黒色線を端子台から取り外す。
- ④ 緑色配線のギボシ接続を外す。
（ギボシ接続を外すときは、本体内部から出ている緑色線は無理に引っ張らないでください）
- ⑤ 電源コードを壁などの穴、および硬質ビニル管、耐水性の絶縁管などに通す。
（必要に応じて本体のアース線も電源コードと一緒に通してください）
- ⑥ 電源コードを外したときの逆の手順で本体に結線し直し（右図参照）、端子台カバーを本体に取付ける。

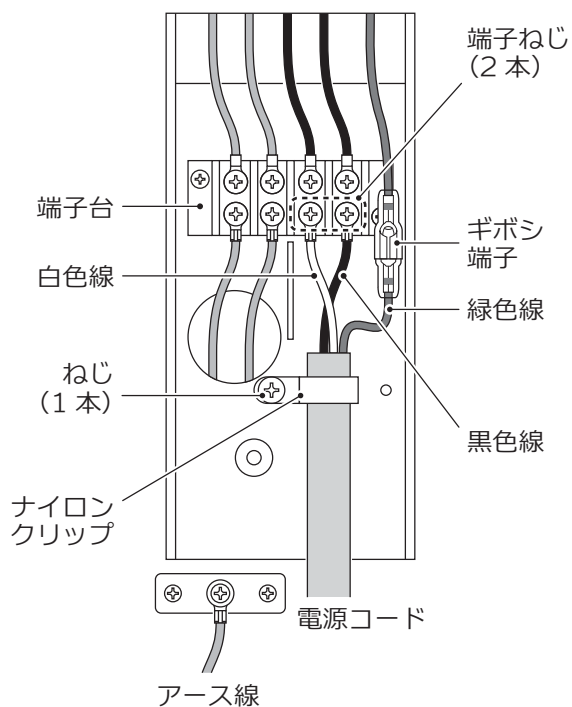
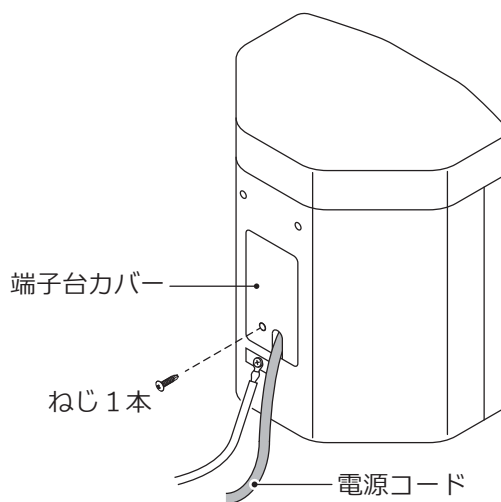
白色線 → 端子台の左側に接続

黒色線 → 端子台の右側に接続

（端子ねじ 締め付けトルク：15kgf・cm）

⚠ 注意

- 丸端子の固定ねじはしっかり締めてください。
- ギボシ端子を接続するとき、端子同士をしっかりと奥まで挿入して接続してください。

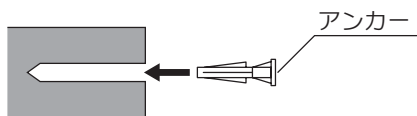


3. 設置のしかた

3-6. 転倒防止バンドを固定する下穴を開ける

- ①浴室の壁にドリルで下穴を開ける。
- ・穴開け位置は本体を設置台に置いたとき、本体上面より高い位置に開けてください。
 - ・下穴の径は使用するアンカーに合わせてください。

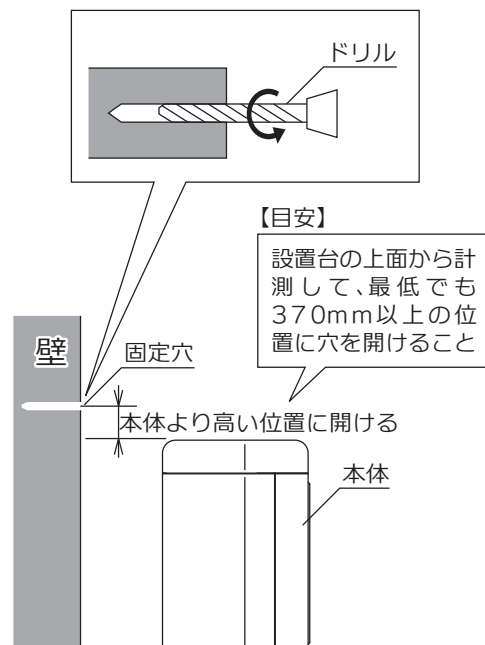
- ②固定穴にアンカーなどを打ち込む。



アンカーは付属していません。
錆びない材質の市販品を使用してください。

- ③削りくずを掃除する。
- ・設置台や設置台周辺、浴槽内などに散らばった削りくずをきれいに取り除いてください。

削りくずが付着した部分から錆が発生したり
汚れとなって落ちない場合があります。

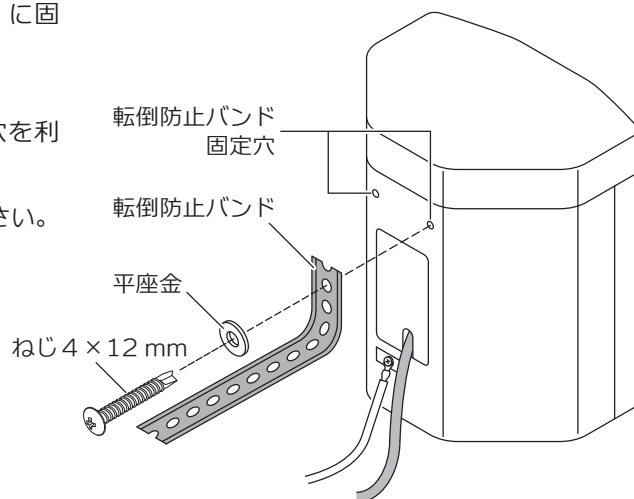


⚠ 警告

- 必ず強度のある壁に取り付けてください。強度不足の場合、製品本体が落下したり、壁が壊れたりして、故障やケガの原因になります。
- 壁への穴開けは壁の材質にあったドリルをご使用ください。穴開けに不備があると製品本体の落下によりケガの原因になります。

3-7. 転倒防止バンドを本体に取り付ける

- 転倒防止バンドの片方に付属のねじ（4×12mm）と平座金を通し、転倒防止バンド固定穴（本体後側）に固定してください。
- 転倒防止バンド固定穴は2か所あります。設置状況に応じてどちらか片方、又は両方の固定穴を利用してください。
- 転倒防止バンドの片方は、まだ壁に固定しないでください。

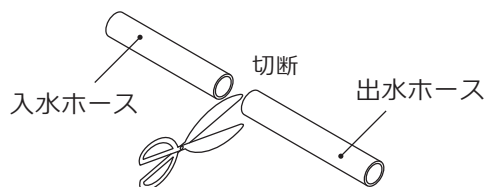


3. 設置のしかた

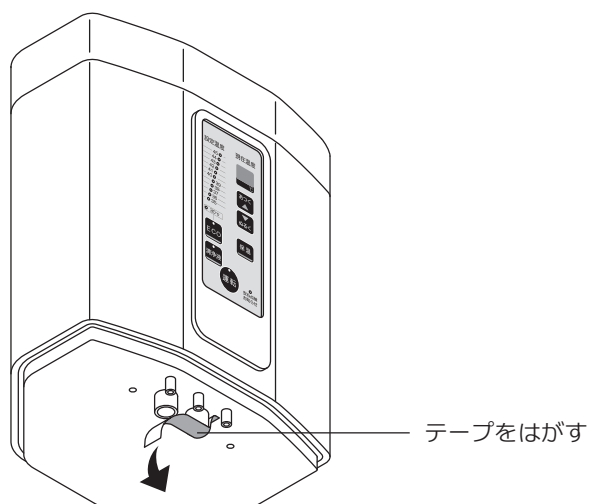
3-8. ホースを本体に接続する

①付属のホースを半分に切断する

- ・入水ホース（1本）と出水ホース（1本）を作ります。

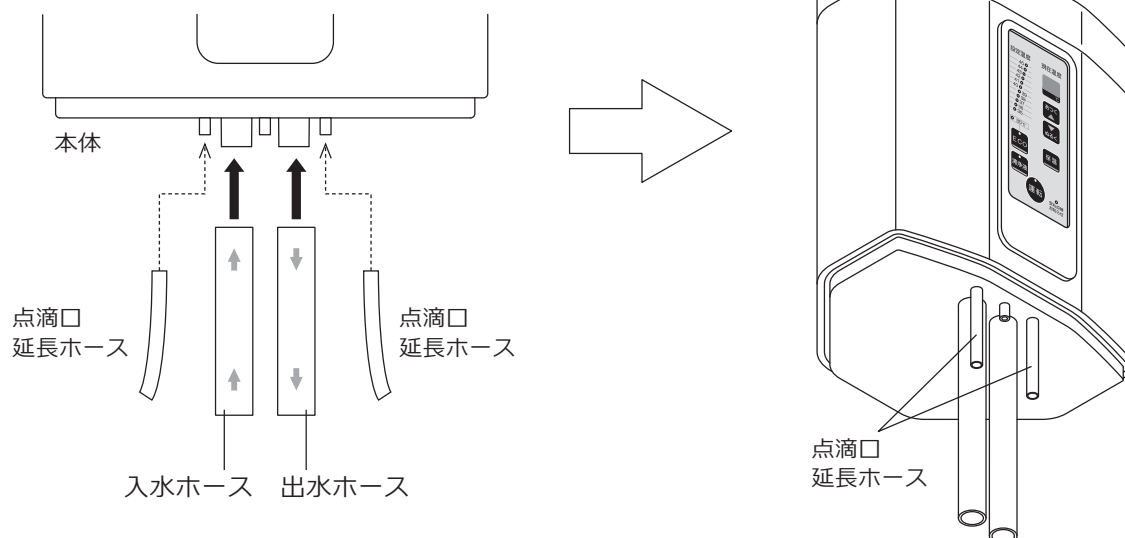


②ホース接続口（本体底）のテープをはがす



③①で切断した入水ホースと出水ホース、点滴口延長ホースを本体に接続する

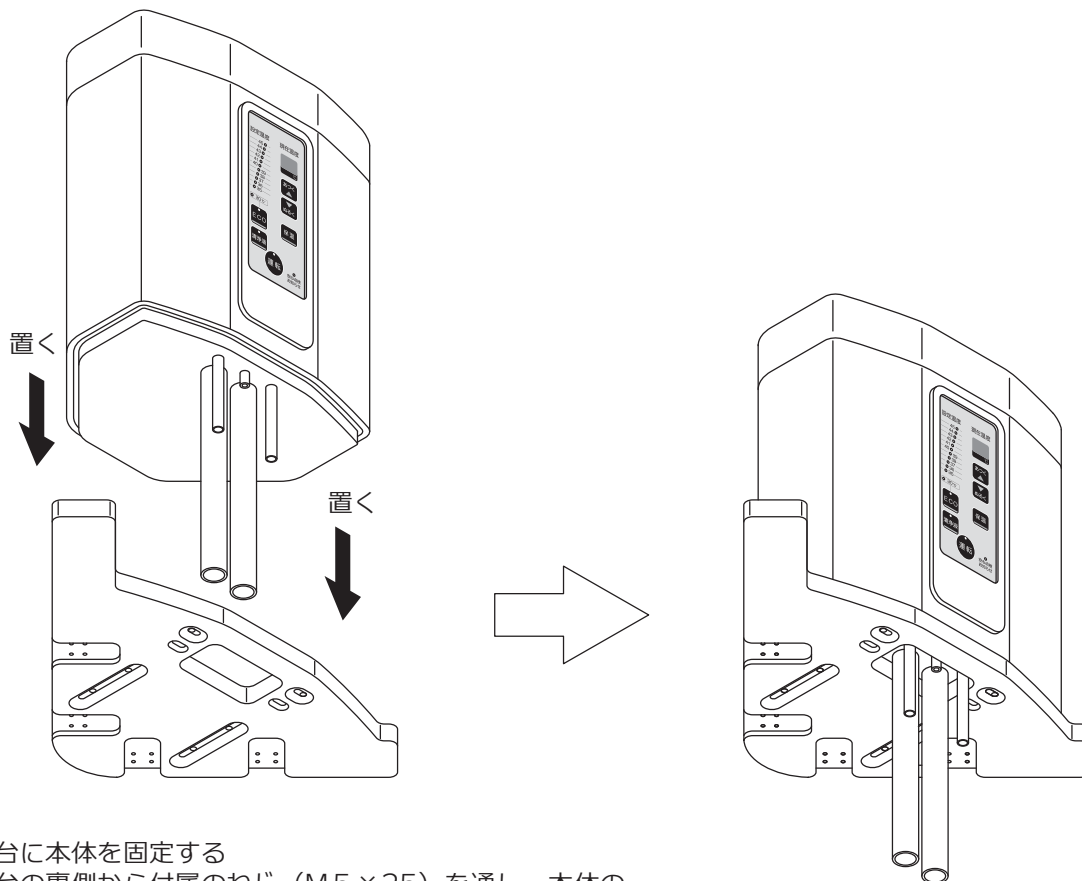
- ・ホースはしっかり差し込んでください。



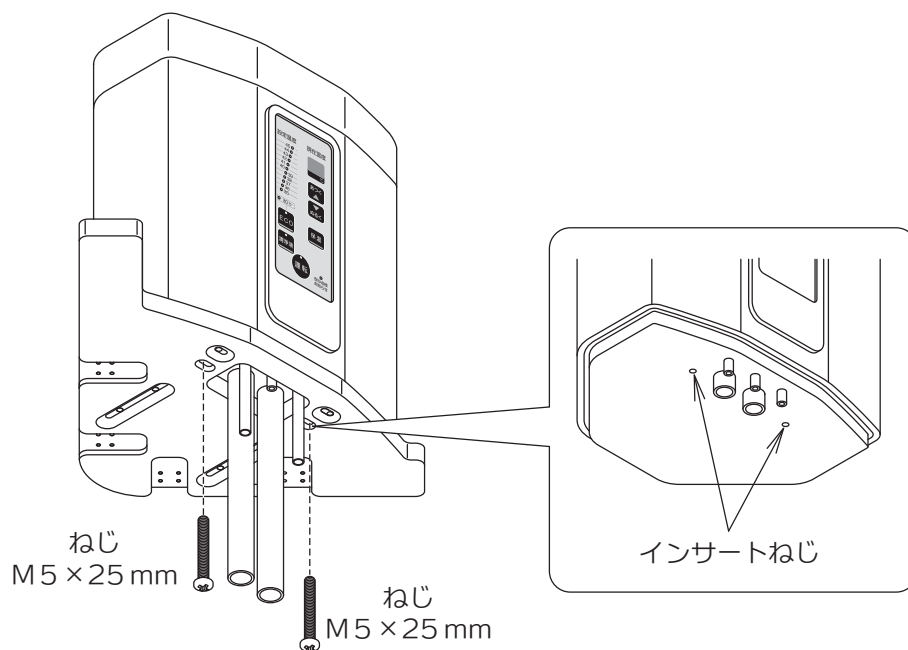
3. 設置のしかた

3-9. 設置台に本体を固定する

- ①設置台に本体をゆっくり置く
・設置台にホースを通して置いてください。



- ②設置台に本体を固定する
・設置台の裏側から付属のねじ (M5 × 25) を通し、本体のインサートねじ (2か所) に締め付けて固定してください。



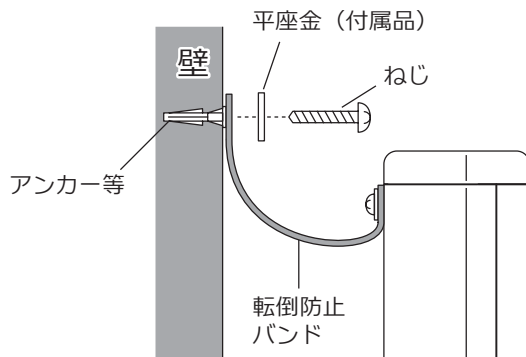
3. 設置のしかた

3-10. 転倒防止バンドを壁に固定する

- ・転倒防止バンドの片方に、アンカーのサイズに合ったねじと付属の平座金を通し、壁に固定してください。
- ・固定するときは、転倒防止バンドのたるみが少なくなるように調整して固定してください。

⚠ 注意

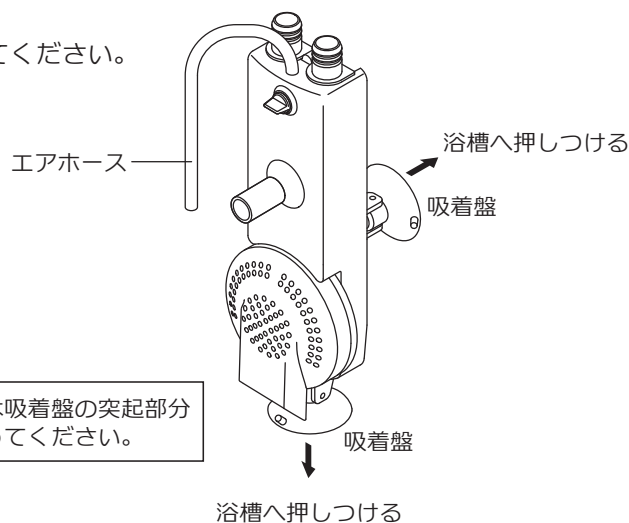
転倒防止バンドのたるみが多い場合、本体の落下を防げない場合があります



ねじは付属していません。
ステンレスなど錆びない材質の市販品を使用してください。

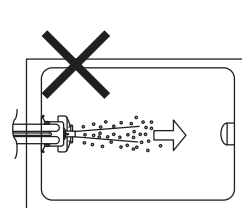
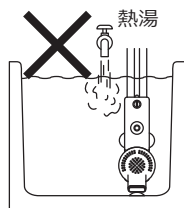
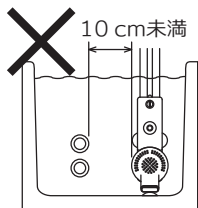
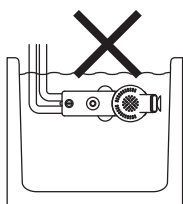
3-11. 浴槽に泡出しユニットを取り付ける

- ・本体の下に位置する場所に取り付けてください。
- ・浴槽に吸着盤（3個）をしっかり押しつけて固定してください。



⚠ 警告

- ジェットノズルが水面より深すぎると気泡が出にくくなったり、減少したりします。
- ガス釜などを設置している場合は、焚き口よりできるだけ（10 cm以上）離して取り付けてください。また、給湯口からのお湯がかからない所に設置してください。熱により変形する恐れがあります。
- ガス釜等の出入面の反対面に、ユニットを取り付けますと、ガス釜内にエアがたまる場合があります。
- 吸着盤を外すときは必ず吸着盤の耳の部分を持って引っ張ってください。

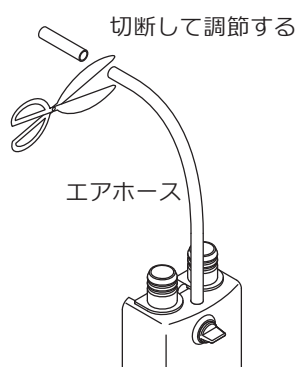


3. 設置のしかた

3-12. ホース類を接続する

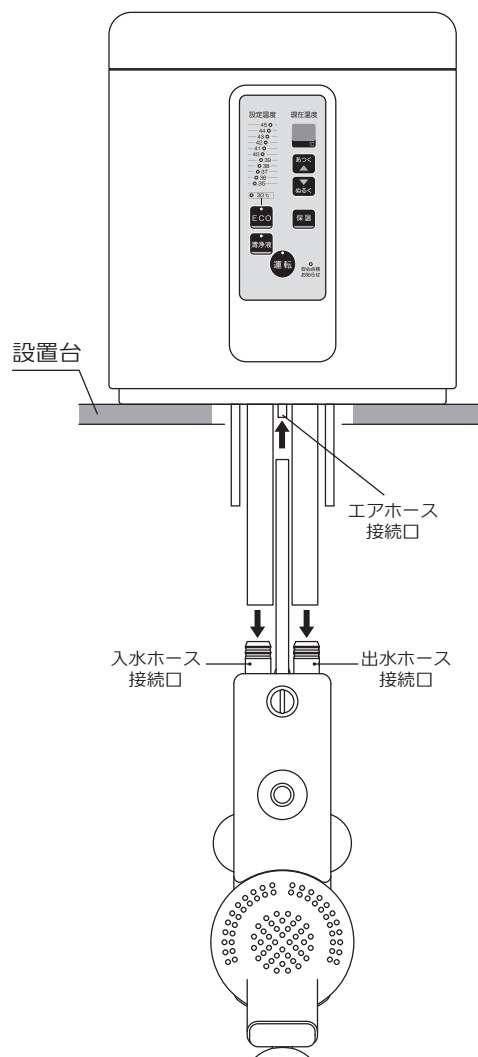
①入水ホースと出水ホースを泡出しユニットに接続する
・接続したとき、ホースが途中で折れ曲がったり、つぶれたりするときはホースを切断して調節してください。

②エアホースを適切な長さに切断して、本体底のエアホース接続口に差し込んでください。



⚠ 注意

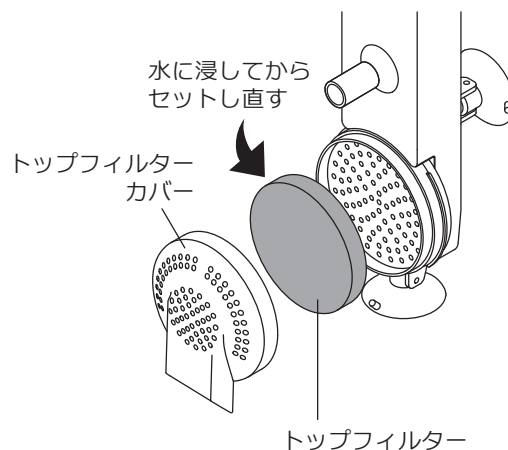
- ホースを切断するときは、接続した後にホースが折れたり、つぶれたりしない長さに調整して切断してください。
- ホースの接続を間違えないでください。エラーや故障の原因になります。



3-13. トップフィルターに水を含ませる

トップフィルターカバーを外してトップフィルターを取り出し、フィルター全体を水に浸してから元に戻します。

水を含ませておくと運転開始時の始動性が良くなります。



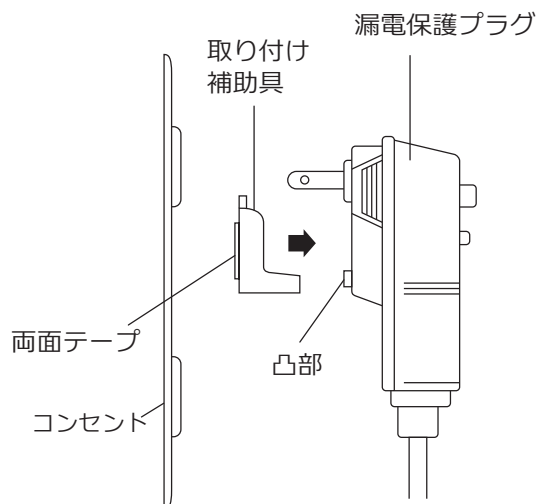
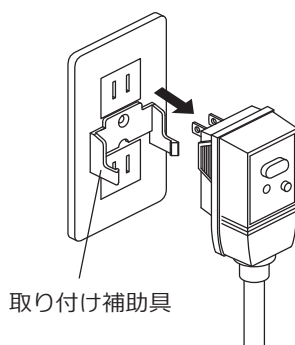
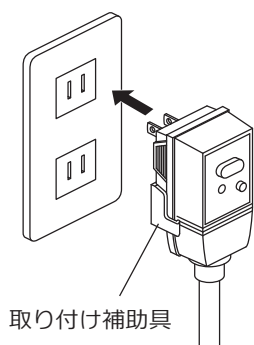
3. 設置のしかた

3-14. 漏電保護プラグをコンセントに取り付ける

- 漏電保護プラグは取り付け補助具を使用してコンセントにしっかり取り付けてください。
- 漏電保護プラグは逆さまに差し込まないでください。

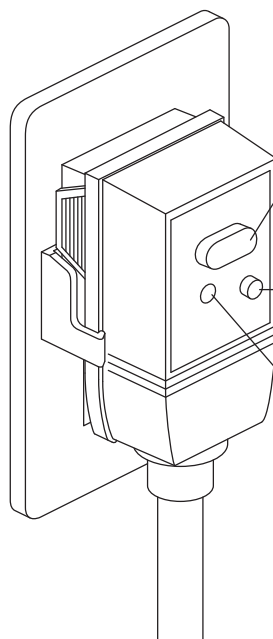
取り付け方法

- ①漏電保護プラグの凸部に取り付け補助具を合わせ、漏電保護プラグにセットする
- ②両面テープの剥離紙をはがす
- ③漏電保護プラグをコンセントにしっかり差し込み、プラグ全体をコンセント側に押さえる



漏電保護プラグをコンセントから取り外すときは、取り付け補助具がコンセント側に残るように外してください。

漏電保護プラグの説明



リセット (入) ボタン

- ・製品本体へ通電するときに押します。
- ・漏電保護プラグが作動して通電が停止した場合、作動した原因を排除してからこのボタンを押すと通電状態に戻ります。

テスト (切) ボタン

- ・製品本体への通電を停止するときに押します。
- ・漏電保護プラグの動作確認をするときにはこのボタンを押します。

動作表示ランプ

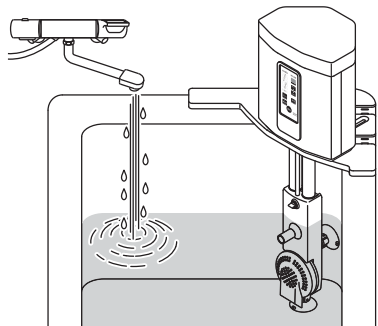
- ・点灯時→製品本体に通電されていません (通電OFF)
- ・消灯時→製品本体に通電中です (通電ON)

※動作表示ランプが消灯していて、製品本体が動作しないときは住宅用分電盤のブレーカーが落ちていないか確認してください。

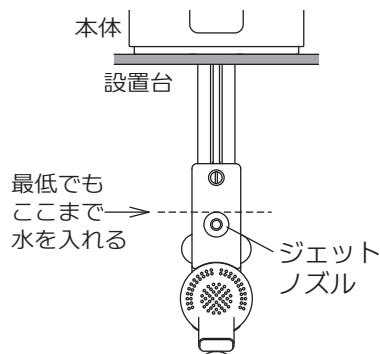
4. 使用前の準備

4-1. 浴槽に水を入れる

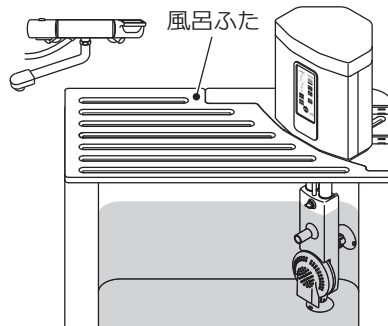
- ① 浴槽に水、または46℃以下のお湯を入れてください



- ② ジェットノズルが隠れるまで水を入れてください
(ジェットノズルからは好みの水位まで入れてください)



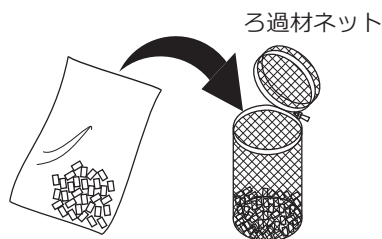
- ③ 付属品の風呂ふたを外したときは元の位置に戻してください



4-2. ろ過材をすすぎ洗いする

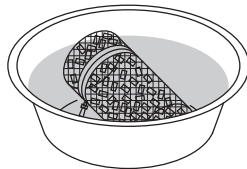
■ろ過材はもみ洗いしないでください、破損します。また、洗剤などでろ過材を洗わないでください。

- ① ろ過材（活性炭・セラミックボール）をビニール袋から、ろ過材ネット（2袋）に入れ替える



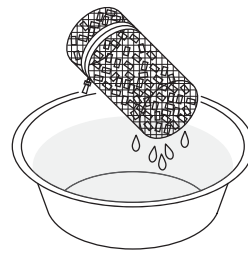
ろ過材ネット1袋に1種類のろ過材を入れてください。活性炭の予備1袋は次回交換時などに使用しますので、保管しておいてください。

- ② 洗面器またはバケツに水（またはぬるま湯）を入れ、ろ過材ネットを水の中で左右に揺すってすすぎ洗いする



・水が濁ってきたら新しい水に入れ替えてください。
・洗うときは決して、もみ洗いしないでください。ろ過材がこすれて粉が出るため水が濁り続けます。

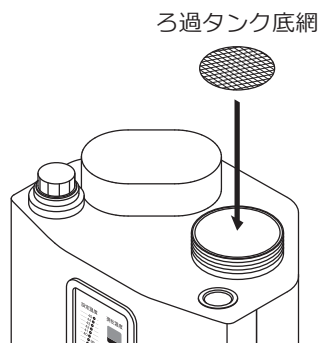
- ③ 水が濁らなくなったら終了です



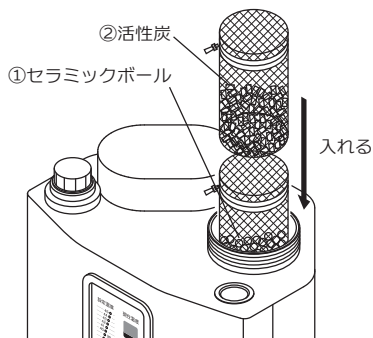
濁り水が付着した部分は汚れますので、洗面器・洗い場をスポンジ等でこすり洗いしてください。とれない場合は研磨スポンジを使用してください。

4-3. 本体にろ過材をセットする

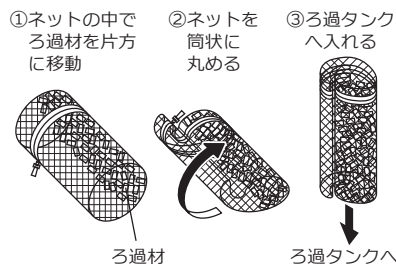
- ① ろ過タンクのふたを開け、付属品のろ過タンク底網を入れる



- ② 洗浄したろ過材入りネットをセラミックボール、活性炭の順にろ過タンクへ入れる



- ③ ろ過タンクに入れにくいときはネットの中でろ過材を片方へ移動させ、移動したろ過材をネットで包むように筒状に丸めてからタンクへ入れてください

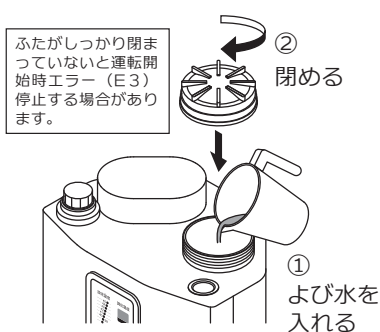


4. 使用前の準備

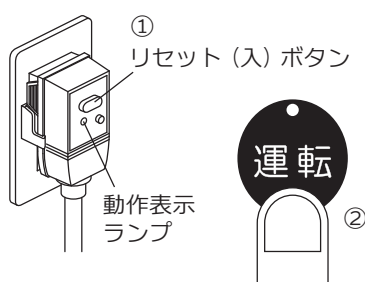
4-4. よび水を入れる

- ろ過タンクによび水を入れた後はふたをしっかりと閉めてください。
- よび水の後、運転を開始するときは泡出しユニットの泡出しツマミを「気泡水流」(p.25)にしておくと、運転の始動性が良くなります。
- 運転を開始してもエラー(E3)により、1回で運転を開始できないときはよび水を数回繰り返してください。
- 運転開始後、いつもより循環量が少ない場合は一度運転を停止し、再度運転スイッチを押して運転を再開してください。

- ① よび水をろ過タンクにゆっくり注ぎ入れ、ろ過タンクいっぱい近くまで入ったら、ろ過タンクのふたをしっかりと閉める

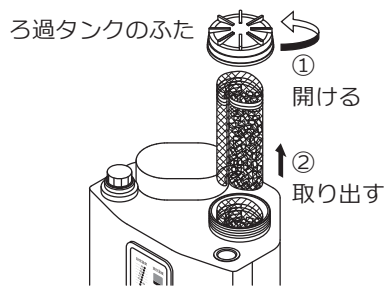


- ② 漏電保護プラグのリセット(入)ボタンを押し、動作表示ランプが消灯してから本体の運転ボタンを押してください

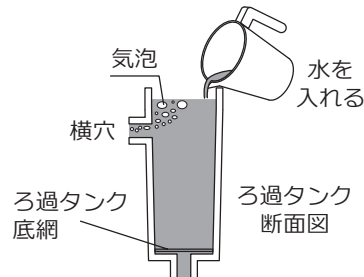


★上記の方法でよび水を何度行ってもエラー(E3)により運転が開始できないときは、下記の手順でよび水を行ってください。

- ① ろ過タンクのふたを開け、ろ過材(2袋)を取り出す



- ② ろ過タンク上部の横穴から気泡が出なくなるまでタンクに水を注ぎ入れ、ろ過タンクがいっぱいになるまで満たしてください

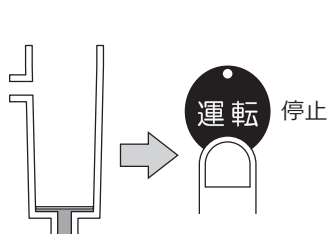


- ③ ふたを閉めずに運転スイッチを押して始動させてくださいしばらくするとエラー(E3)が表示されます



エラー(E3)を表示して停止しますが故障ではありません。運転スイッチを切/入すると復帰します。

- ④ ろ過タンクが空になるまで③の操作を繰り返します



- ⑤ ろ過タンクにろ過材(2袋)とよび水を入れ、ろ過タンクのふたをしっかりと閉めます



- ⑥ 運転スイッチを押して運転を開始してください

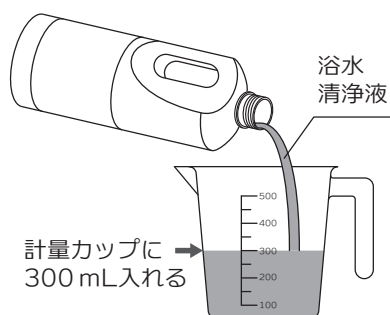


4. 使用前の準備

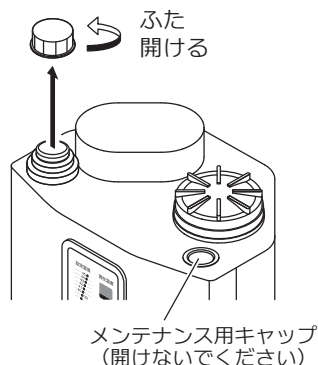
4-5. 本体に浴水清浄液を入れる／補給方法

- 初回設置時は400 mLの浴水清浄液を入れてください。
- 浴水清浄液を入れるのは本体に向かって、左側のふたを開けたタンクのみです。右側のメンテナンスキャップは開けないでください。
- 使用中に清浄液ランプがゆっくり点滅したら補給のタイミングです。下記の方法で補給してください。

- ① 付属の計量カップに浴水清浄液を300 mL入れる
(初回設置時のみ400 mL)



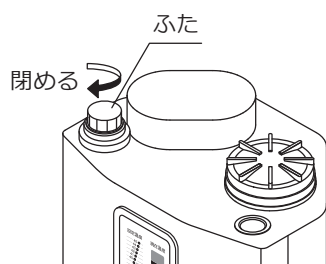
- ② 清浄液タンクのふたを開ける



- ③ 付属のロートを使って計量カップの浴水清浄液をゆっくり注ぎ入れる



- ④ 清浄液タンクのふたを閉める



- 清浄液タンクには、決められた補給量を必ず入れてください。初回設置時（全排出して清浄液タンクが空の場合）は400 mL、その後は300 mLです。指定量以外の補給を行うと浴水清浄液の残量が正しく計測できなくなり、清浄液ランプの表示が正しく表示しない場合があります。

- 清浄液ランプ（赤色）の表示状態と浴水清浄液の残量
消灯時：半分以上残っています。
点灯時：残り約半分です。
ゆっくり点滅：浴水清浄液をタンクに補給してください。

- ※仕様変更により注入量等は変更される場合があります。
- ※浴水清浄液が入っていた容器が空になっても捨てずに保管してください。（修理時など、液を容器に戻す場合に使用します。）
- ※使用した計量カップとロートはきれいに水洗いし保管してください。
- ※メンテナンス用キャップは開けないでください。

⚠ 注意

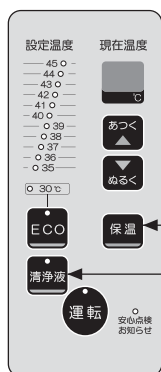
- 補給するときはあふれないように注意してください。あふれた場合はきれいに拭き取ってください。
- 1か月の注入量の平均が規定量となるように調整しています。このため注入量は多少のばらつきがありますが使用上問題ありません。
- 浴水清浄液を他の液体と混ぜてタンクに入れしないでください。
- 清浄液タンクには決められた量を入れてください。
- 補給するときは清浄液ランプがゆっくり点滅しているときに行ってください。ランプが消灯または点灯しているときに補給するとタンクの注ぎ口からあふれ出る場合がありますので、注意してください。
- タンクに入れた後は必ずタンクのふたを閉めてください。
- 目や口に入らないように注意してください。入った場合は流水で洗い流してください。
- 保存するときは保存容器のキャップをしっかりと閉め、冷暗所に保存してください。
- 子どもや乳幼児の手の届かない所に置いてください。
- 誤って飲んでしまった場合は口の中を水ですすぎ、コップ1～2杯の水を飲ませ、無理に吐かずに速やかに医師の診断を受けてください。

4. 使用前の準備

4-6. 浴水清浄液の自動注入を設定する

- 浴水清浄液は2日に1回、設定した時刻を目安に自動注入します。
- 自動注入設定を変更したいときは下記の手順で再設定してください。
- 注入タイミングの時刻は目安です。注入時刻がずれてきたときは再設定してください。

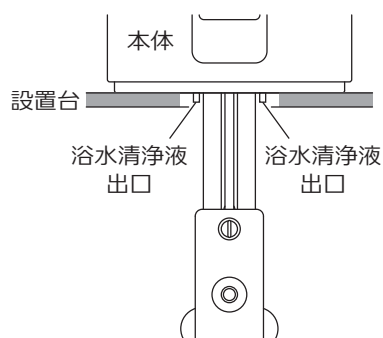
① 保温スイッチを押しながら清浄液スイッチを押してください



保温スイッチ

清浄液スイッチ

② ①の後、すぐに浴水清浄液が注入されれば設定完了です



注意

浴水清浄液の注入量が左右で違うときがありますが故障ではありません。

浴水清浄液の自動注入サイクル

▼ … 自動注入あり

▽ … 自動注入なし



注意

下記のような条件で本体への通電が停止すると自動注入設定の誤差が大きくなります。このような場合は再度、自動注入設定を行ってください。

- ・ 停電による運転停止
- ・ 漏電保護プラグのテスト (切) ボタンを押した
- ・ 通電中に漏電保護プラグをコンセントから抜いた

5. 使用方法

5-1. 運転の開始と停止の方法

- 運転を開始する→運転スイッチを押す
- 運転を停止する→運転スイッチを1秒以上押す



運転が始まると

- 浴水の循環が開始します。
- 運転ランプが点灯します。
- 浴水温度を表示します。
- 設定された浴水温度に達していないときは加温を始めます。

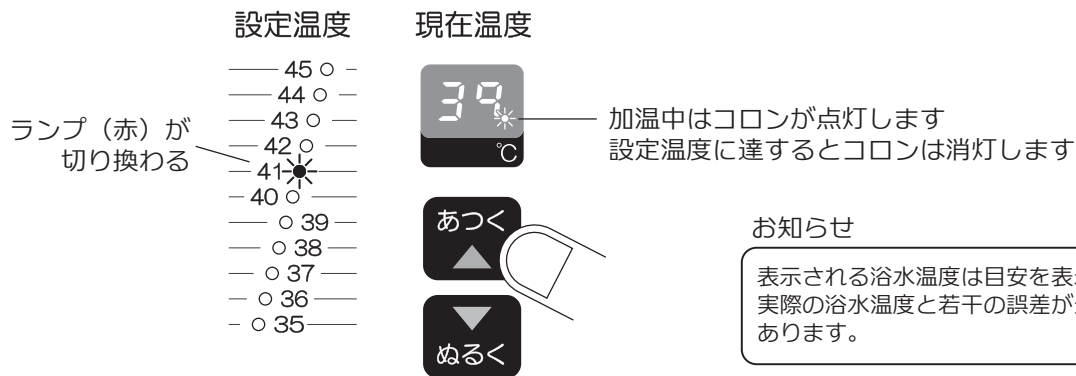
5-2. エラー表示のリセット方法

- 運転中にエラーが表示されると運転は自動停止します。
p.32の処置方法を行ってから運転スイッチを入/切すると、エラー表示をリセットできます。

5-3. 浴水温度を変更する

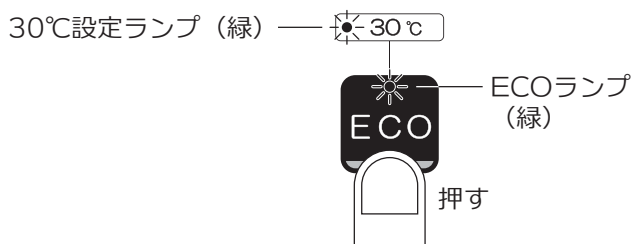
- 浴水温度を変更したいときは「あつく」または「ぬるく」スイッチを押してください。スイッチを押すたびに設定温度ランプが切り替わります。浴水が設定温度に達すると、設定した浴水温度を保ちながら運転します。
- 浴水加温中は浴水温度表示部の右下にコロンが点灯します。

例：浴水温度が39℃のとき、設定温度を41℃に切り替えた場合



5-4. ECO運転

- ECOスイッチを押すと浴水温度を30℃に保ちながら運転します。
- OFFにするときは、ECOスイッチをもう一度押してください。ECOランプが消灯します。



ECO運転が始まると

- ECOランプが点灯します。
- 30℃設定ランプが点灯し、他の設定温度ランプは消灯します。

5. 使用方法

5-5. 保温

- 保温機能をOFFにして運転したいときは保温スイッチを押してください。設定温度ランプが消灯し、循環運転のみ行います。（保温はしません）
- 保温OFFを解除するときは、もう一度保温スイッチを押してください。設定温度ランプが点灯します。
- 浴水加温中は浴水温度表示部の右下にコロンが点灯します。
- ECO運転中に保温をOFFにすると、30℃保温ランプとECOランプが消灯します。

保温

5-6. 浴水清浄液の自動注入と手動注入

- 自動注入…2日に1回、自動的に規定量を点滴注入します。
※自動注入の設定変更についてはp.22をお読みください。
- 手動注入…清浄液スイッチを1回押すと規定量を点滴注入します。
※1時間に1回のみ操作できます。

清浄液

清浄液ランプ（赤）

点滴注入中

- 清浄液ランプが早く点滅します
- 本体底部の点滴出口から浴水清浄液が出てきます
※点滴出口を指などでふさがらないでください
- ※点滴ポンプの作動音がします

5-7. 浴水清浄液の自動注入を停止する方法

- 次のようなときは自動注入を停止してください。
 - ・旅行などで数日間入浴しない
 - ・本製品の配管洗浄時とすすぎ運転時（p.29～30）
- ECOスイッチを2秒以上押すと自動注入が停止し、停止中はECOランプがゆっくり点滅します。
- 自動注入を再開するときは運転スイッチを 入/切し、浴水清浄液の自動注入を再設定してください。（p.22）
※浴水清浄液の自動注入を停止した場合は、必ず自動注入設定を行ってください。
設定を行わなかった場合、自動注入は開始されません。

ECO

ECOランプ（緑）

停止中

ECOランプがゆっくり点滅します

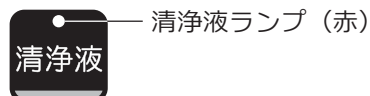
5. 使用方法

5-8. 浴水清浄液の補給お知らせ

- 清浄液ランプがゆっくり点滅しているときは、タンク内の浴水清浄液が不足していることをお知らせしています。p.21の手順に従って浴水清浄液を補給してください。
- 浴水清浄液のお買い求めは販売店までご連絡ください。

<ランプが示す清浄液の残量>

消灯時	半分以上残っています
点灯時	残り約半分です
ゆっくり点滅	残り少ないので補給してください

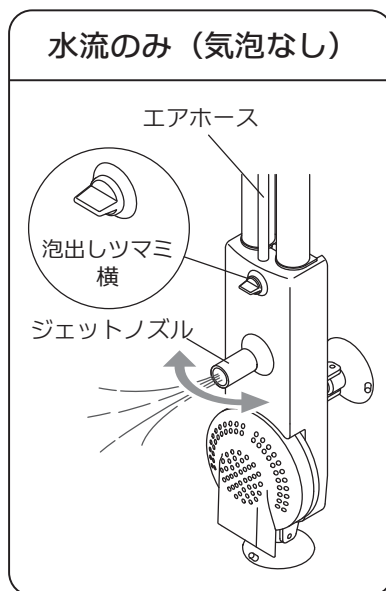
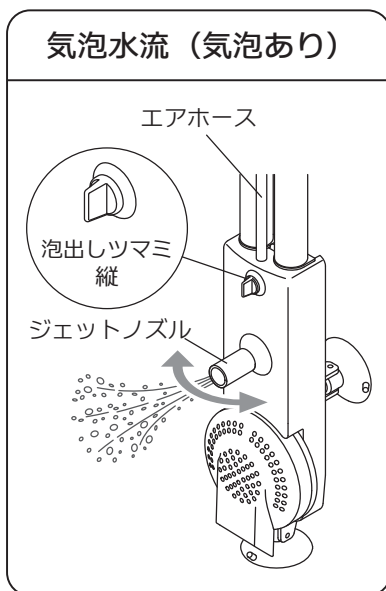


注意 補給するときは

補給するときはランプがゆっくり点滅しているときに行ってください。ランプが消灯または点灯しているときに補給するとタンクの注ぎ口からあふれ出る場合がありますので、注意してください。

5-9. 気泡水流

- 泡出しユニットの泡出しつまみを回すと、気泡水流（気泡あり）または、水流のみ（気泡なし）の運転を選択できます。
- ジェットノズルを左右に動かすと水流の向きを変えられます。
- エアホースが折れ曲がったりつぶれたり、目詰まりするとつまみを回しても気泡は発生しません。



※設置当初など、ろ過が安定しない場合は気泡水流のまま数日間、運転してください。

6. 点検・その他

6-1. 日常の点検

- 運転を停止してから行ってください。
- 本体、ホースの接続部から水漏れしていないか確認してください。
- 本体の汚れは、水を含ませた布やスポンジで拭き取ってください。汚れがひどいときは水で薄めた中性洗剤を併用してください。（ベンジン等の溶剤は本体が変色しますので使用しないでください。）
- 故意に本体に水やお湯をかけないでください。故障の原因になります。

6-2. 日常のお手入れ

- 本体と浴水を清潔に保つため、下記の清掃期間を目安にお手入れしてください。
- 清掃の頻度や消耗品の交換時期は、入浴回数や入浴人数、汚れ具合によって早くなる場合があります。
- トップフィルター、ろ過材、ろ過材ネット、ろ過タンクふたパッキンは消耗品です。
- 本体内部の配管洗浄剤は循環温浴システム専用洗剤（別売）をご使用ください。
※消耗品・配管洗浄剤は販売店までご連絡ください。
- 本体及び付属品の清掃に塩素系洗剤は使用しないでください。
- 月に1回程度、漏電保護プラグのテストボタンを押して動作確認をしてください。動作表示ランプが点灯すれば正常です。点灯しない場合は故障ですので。販売店までご連絡ください。
- 浴槽壁面のきつ水線の汚れとヌメリを除去するときは、浴槽に湯が張られたままの状態、スポンジで軽くこすってください。
- ろ過材はこすり洗いと破損します。洗浄するときは水道水の流水ですすぎ洗い程度にしてください。また、ろ過材を洗剤などで洗わないでください。

<お手入れの内容（目安）>

浴水の交換	1週間に1度
浴槽壁面のきつ水線の汚れとヌメリと除去	毎日入浴後
トップフィルターの洗浄	毎日入浴後
ろ過材（活性炭）の洗浄	1か月に1度
ろ過材（セラミックボール）の洗浄	3か月に1度
配管の洗浄	6か月に1度
浴槽の洗浄	浴水の交換時と配管洗浄時

<消耗品の交換時期（目安）>

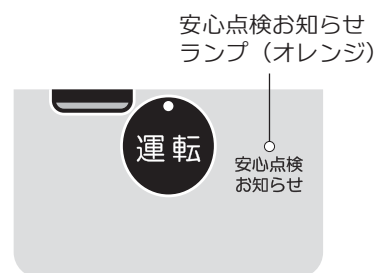
トップフィルター	傷んだら交換
ろ過材（活性炭）	3か月に1度
ろ過材（セラミックボール）	摩擦などにより減少したら補充または交換
ろ過材ネット	傷んだら交換
ろ過タンクふたパッキン	エラーE3が頻繁に発生するまたは傷んだら交換
浴水清浄液ボトル（1000mL）	半年に1度

6-3. 安心点検のお知らせについて

- 操作パネル右下の安心点検お知らせランプが点灯、または点滅したら本体の点検が必要です。販売店まで必ずご連絡ください。点検を行わないとランプは消灯しません。（有償）

※安心点検の際、部品の状態によっては交換が必要になる場合があります。（有償）

交換対象例：チューブポンプ、チューブポンプのチューブ、循環ポンプ、電子基板、など



6. 点検・その他

6-4. トップフィルターの洗浄

- 必ず毎日洗浄してください。
- トップフィルターは消耗品です。トップフィルターが薄くなるなど、傷んできたら必ず新品と交換してください。
- トップフィルターを外したまま運転すると製品本体の故障の原因になります。
- トップフィルターを取り出すときはフィルターセットを浴水の外に取り出してから分解してください。浴水の中で分解すると、トップフィルターでキャッチしたごみが再び浴水に散らばります。

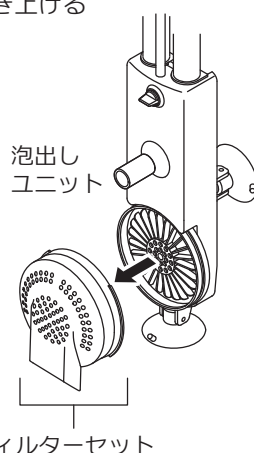
※トップフィルターを洗うときは石けんやボディソープを使ってやさしく握り洗いし、よくすすいでからフィルターセットに戻してください。

① 運転を停止する

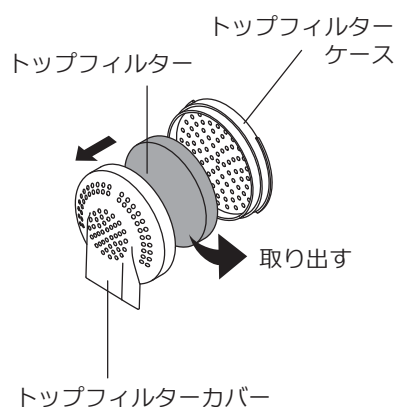


1秒以上押す

② 泡出しユニットからフィルターセットを取り出し、浴水から引き上げる



③ 浴水の外でフィルターセットを分解し、トップフィルターを取り出す

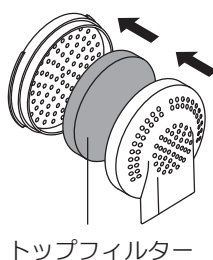


④ トップフィルターに付着したごみを指で取り除いた後、石けんやボディソープを付けてやさしく握り洗いする



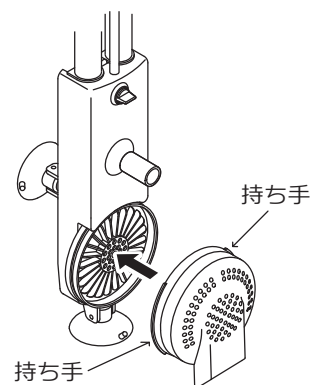
※強い洗剤は使わないでください

⑤ トップフィルターに水を含ませたままフィルターセットを組み立てる



※水を含ませるのは運転再開時にエラーE3を防止するためです

⑥ フィルターセットを泡出しユニットへ取り付け、運転を再開する



※持ち手がない部分を上にして取り付けます

6. 点検・その他

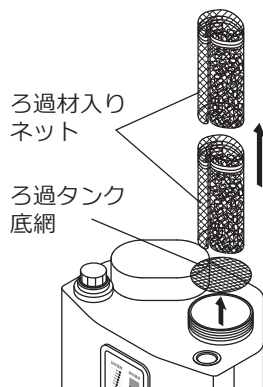
6-5. ろ過材とろ過タンク底網の洗浄

- 洗浄して運転を再開した後、エラー（E3）停止する場合は再度よび水を行ってください。（p.20参照）
- ろ過材はこすり洗いすると破損します。ろ過材を洗浄するときは水道水の流水ですすぎ洗い程度にしてください。また、ろ過材を洗剤などで洗わないでください。

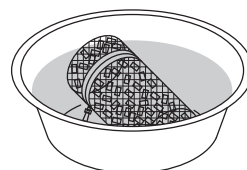
① 運転を停止する



② ろ過タンクのふたを開け、ろ過材入りネットと底網を取り出す

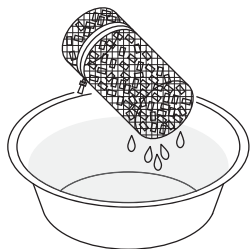


③ 洗面器またはバケツに水（またはぬるま湯）を入れ、ろ過材ネットを水の中で左右に揺すってすすぎ洗いを



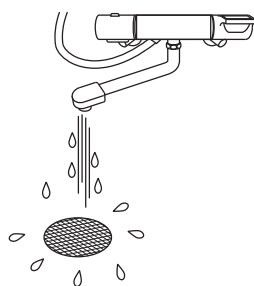
- ・ 水が濁ってきたら新しい水に入れ替えてください。
- ・ 洗うときは決して、もみ洗いしないでください。ろ過材がこすられて粉が出るため水が濁り続けます。

④ 水が濁らなくなったら終了です

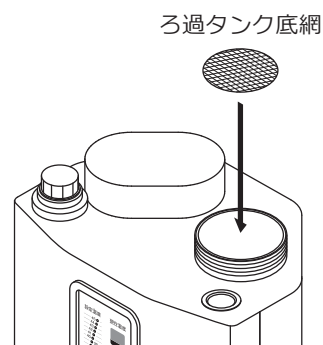


濁り水が付着した部分は汚れますので、洗面器・洗い場をスポンジ等でこすり洗いしてください。とれない場合は研磨スポンジを使用してください。

⑤ ろ過タンク底網はブラシかスポンジなどで洗う

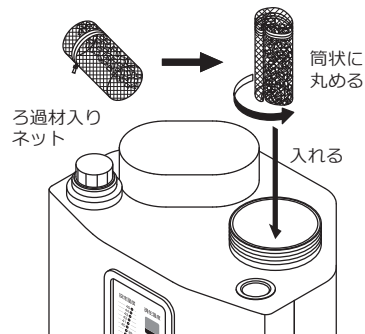


⑥ ろ過タンクのふたを開け、ろ過タンク底網を入れる



⑦ ろ過材入りネット（2袋）をタンクに入れる

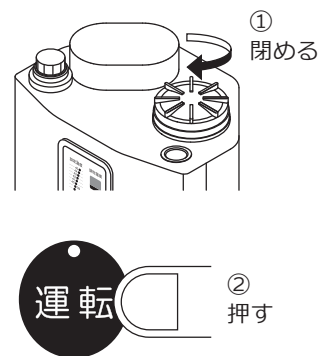
タンクに入りにくい場合は、ろ過材入りネットを筒状に丸めてから入れてください。



⑧ よび水をろ過タンクにゆっくり注ぎ入れる



⑨ ろ過タンクのふたをしっかりと閉め、運転を再開する



6. 点検・その他

6-6. 配管洗浄

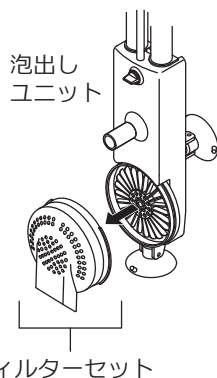
洗浄手順

- 6か月に1度を目安に配管洗浄をお勧めします。(汚れ具合によって洗浄期間が早まる場合があります)
- 配管洗浄剤は循環温浴システム専用洗剤(別売品)をご使用ください。※お求めは販売店にご注文ください。
- 次の手順はバケツ(20リットルタイプ)を使用して、配管洗浄とすすぎを説明しています。
バケツがない場合は浴槽内に配管洗浄剤を入れ、配管洗浄とすすぎを行ってください。

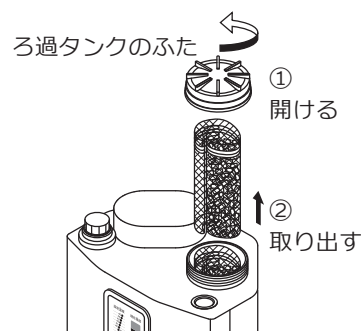
① 運転を停止する



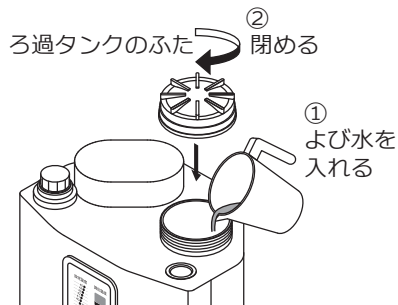
② フィルターセットを取り外す



③ ろ過タンクのふたを開け、ろ過材入りネット(2袋)を取り出す

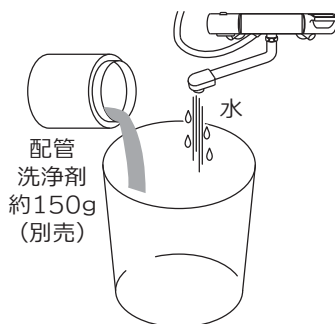


④ ろ過タンクによび水を入れ、ろ過タンクのふたを閉める

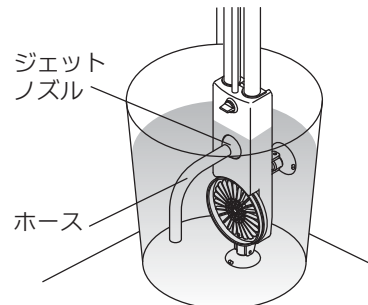


ろ過材は入れないでください

⑤ バケツ(20L容器)に約150gの配管洗浄剤(別売)と水、またはぬるま湯を入れ、洗浄剤が溶けるまでよくかきまぜる



⑥ 洗浄剤を溶いたバケツを浴槽内に入れ、泡出しユニットをバケツに入れる



ホース等をジェットノズルに接続すると水はねが少なくなります

⑦ 運転スイッチを押して洗浄運転を開始する



- ・ 洗浄運転は1時間以上行ってください
- ・ エラーE3により運転できないときは、ろ過タンクによび水を入れてください

⑧ 洗浄運転が開始したらECOスイッチを2秒以上押し続け、浴水清浄液の自動注入を停止する



洗浄が終了したら次ページのすすぎを行ってください。

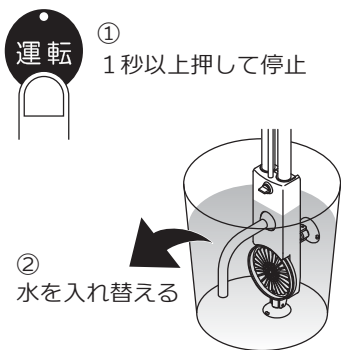
次へ進む

6. 点検・その他

すすぎ手順

■エラー（E3）によりすすぎ運転を開始できないときは、ろ過タンクによび水を入れてください。

- ① 運転を停止し、バケツの水をきれいな水に入れ替える



- ② 運転スイッチを押してすすぎ運転を開始する

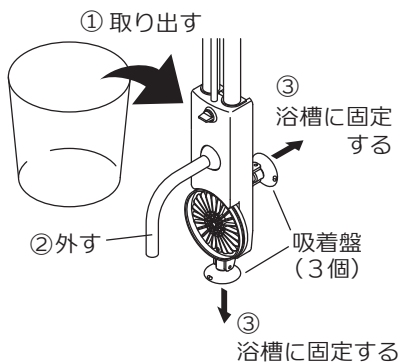


すすぎはバケツの水が濁らなくなるまで数回、水を入れ替えながら行ってください。

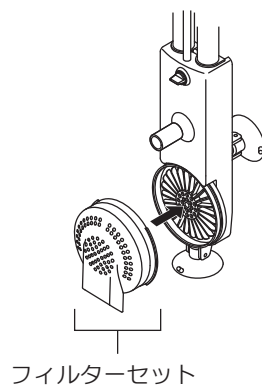
- ③ バケツの水が濁らなくなったら運転スイッチを押し、すすぎ運転を終了する



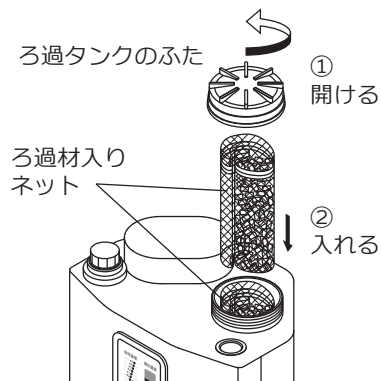
- ④ バケツから泡出しユニットを取り出し、浴槽内に固定し直す



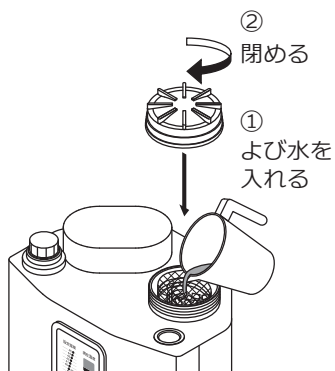
- ⑤ 泡出しユニットにフィルターセットを取り付ける



- ⑥ ろ過タンクにろ過材入りネットを入れる



- ⑦ ろ過タンクによび水を入れ、ろ過タンクのふたを閉める



- ⑧ 運転スイッチを押して通常運転を再開し、浴水清浄液の自動注入を再設定してください (p.22)



6. 点検・お手入れ

6-7. 長期間使用しないとき









- 清浄液タンクから浴水清浄液をすべて排出し、元の容器に戻してください。清浄液タンクはすすいで乾燥させてください。
- 本体の運転を停止し、漏電保護プラグの切りボタンを押してから漏電保護プラグをコンセントから抜いてください。
- 配管・ろ過材・トップフィルター・清浄液タンクを洗浄し、本体内部の水をできるだけ抜いて乾燥させてから保管してください。
- 再び使用するときは「使用前の準備」にしたがって運転を開始してください。

<清浄液タンクのすすぎ方>

- ① 清浄液スイッチを5秒以上押し続け、残液をすべて排出する。
 - ・ 点滴ポンプが3分間作動し、浴水清浄液出口から残液が排出されます。
 - ・ 排出しきれない場合は、再度スイッチを5秒以上押し続けてすべて出しきってください。
 - ② 清浄液タンクのふたを開ける。
 - ③ 付属の計量カップに400 mLのぬるま湯（41～45℃程度）を入れ、清浄液タンクに注ぎ入れる。
 - ④ 清浄液スイッチを5秒以上押し続けてぬるま湯をすべて排出する。
 - ・ 浴水清浄液出口から排出されます。
 - ・ 排出しきれない場合は、再度スイッチを5秒以上押し続けてすべて出しきってください。
- ※ 排出した浴水清浄液は元の容器に戻し、しっかりふたを閉めて保管してください。

7. エラー表示

- 操作パネルの浴水温度表示部にエラーが点滅表示するときは下記の処置方法を行ってください。解決しない場合は販売店にご連絡ください。
- エラー表示は運転スイッチを入/切するとリセットできます。（復帰しないエラーもあります。）

エラー表示	原因	処置方法
 	水温センサーの故障	販売店にご連絡ください
	基板の故障	販売店にご連絡ください
	ポンプ停止中に水流を検知した	販売店にご連絡ください
	ポンプ作動中に水流を検知できなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・よび水を数回行う ・トップフィルターを洗浄または交換する ・ろ過材洗浄または交換する ・配管洗浄を行う ・配管中の異物を取り除く ・入出水ホースの接続が正しいか確認する ・ろ過タンクのふたをしっかりと閉める ・ろ過タンクのふたの内側にあるゴムパッキンが傷んでいる場合は交換する
	空焚きセンサーが作動した	販売店にご連絡ください
	ヒーターが24時間以上、連続通電された ・300 L以上の浴水量を使用している ・浴室の気温が低下している	<ul style="list-style-type: none"> ・販売店にご連絡ください ・一般的な家庭用浴槽の水量でお使いください。 ・入浴しないときは浮かしふたをして浴水を保温してください。 （一度運転を停止すると「HE」は解除されます）
 （無表示）	① 運転が停止している ② 漏電保護プラグがコンセントから抜けている ③ 漏電保護プラグのランプが点灯している ④ コンセントに電気（100V）が来ていない	① 運転スイッチを押す ② 漏電保護プラグを差し込む ③ 漏電保護プラグのリセットボタンを押す ④ 屋内のブレーカーを調べてください
47℃以上の浴水温度が点滅（運転継続）	本体内部の浴水温度が47℃以上になった	浴水に水道水を入れるなど、浴水温度を下げる（放置したまま46℃以下まで下がると自動復帰します）
50℃以上の浴水温度が点滅（運転停止）	本体内部の浴水温度が50℃以上になった	浴水に水道水を入れるなど、浴水温度を下げる（放置したまま46℃以下まで下がると自動復帰します）
5℃以下の浴水温度が点滅（運転停止）	本体内部の浴水温度が5℃以下になった	5℃以下では運転しません（凍結による故障防止）（放置したまま7℃以上に達すると自動復帰します）

※運転スイッチを入/切しても再びエラー表示になる場合は、本製品の漏電ブレーカーのテストボタンを押し、電源を遮断してから販売店にご連絡ください。

8. おかしいなと思ったら

- 修理を依頼する前に該当する症状がないか下記を確認してください。
- 処置方法を行っても改善しないとき、または下記にない症状が発生したときは販売店までご連絡ください。

症状	原因・処置方法
浴水が濁る	<ul style="list-style-type: none"> ・浴水を入れ替えてください。 ・入浴剤や温泉水は使用しないでください。 ・入浴前に身体をよく洗ってから入浴してください。 ・身体に付いた石けんやシャンプーなどはよく洗い流してから入浴してください。 ・数日間、気泡水流のまま運転する。(p.25)
きつ水線に沿って汚れが付いている	<ul style="list-style-type: none"> ・浴水中の目に見えない汚れや、ろ過材の粒子が付着したものです。スポンジで拭き取ってください。 ・特に、新しいろ過材を使用し始めたときは、喫水線にろ過材の粒子が付着しやすくなりますので、その都度スポンジで拭き取ってください。 → 喫水線の汚れを拭き取ったスポンジは水道水の流水で洗ってください。浴水中ですすぎ洗いすると、喫水線の汚れとして再付着します。
循環が悪くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・トップフィルターを洗浄または交換してください。 ・ろ過材を交換してください。 ・本体の配管洗浄を行ってください。 ・運転を一度停止し、運転スイッチを押し直して再始動してください。
設定温度まで浴水温度が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> ・保温OFFを解除してください。 ・浴槽にふたをして保温してください。 ・加温または保温しない場合はヒーターの故障です。販売店にご連絡ください。 ・入浴しないときは気泡水流を水流のみにしてください (p.25)
設定温度以上に浴水温度が上がりすぎる(夏季)	<p>水道水を浴水に足すなど、適度な温度まで下げてください。</p> <p>(本製品は循環ポンプの発熱も浴水保温に利用しています。夏季や浴室内室温が高いときは、設定温度より浴水温度が高くなる場合があります。)</p>
浴水の減りが早い	<ul style="list-style-type: none"> ・浴槽の止水栓がゆるんでいる場合は、しっかり栓をしてください。 ・止水栓が傷んでいる場合は新品と交換してください。
清浄液ランプがゆっくり点滅している	<p>浴水清浄液を本体のタンクに補給してください。(p.21)</p>
浴水清浄液が注入されない	<ul style="list-style-type: none"> ・ECOランプがゆっくり点滅している場合は、自動注入が停止状態です。 → 一度運転を切り、再度運転を開始してから自動注入の再設定を行ってください。(p.22) ・自動注入を再設定しても初期注入が行われなときは、故障または浴水清浄液が通る配管が詰まっている可能性がありますので、販売店にご連絡ください。 ・清浄液ランプがゆっくり点滅しているときは本体の清浄液タンクに浴水清浄液を補給してください。
浴水清浄液の注入量が左右で違うときがある	<p>故障ではありません。</p>

8. おかしいなと思ったら

症状	原因・処置方法
浴水清浄液を本体に入れてから3～4か月が過ぎても、清浄液ランプが点灯または点滅しない	清浄液タンクの入り口から割り箸を入れ、割り箸がどの程度濡れるかで残量を確認してください。残量がないのに清浄液ランプが点灯または点滅しないときは、販売店にご連絡ください。
循環ポンプがよく停止する。またはポンプから異音がする。	販売店にご連絡ください。
エラーがよく表示されるようになった	販売店にご相談ください。
安全点検ランプが点灯または点滅している	長期間使用しているため、安全点検が必要です。販売店まで必ずご連絡ください。点検が完了したら表示ランプの解除を行います。(有償)

注意 スケール汚れについて

※使用期間が長くなると、浴水の汚れや水道水に含まれるミネラル分などが本体内部の部品や配管の内側に付着するスケール汚れが発生します。

※スケール汚れが多量に付着したまま使用し続けると、本体の異常や故障の原因になりますので、定期的に本体内部の配管洗浄を行ってください。

※スケール汚れが付着する頻度や分量は、ご利用状況や地域の水質に左右されます。

9. 保証とアフターサービス

■保証書（別添付）

保証書は販売店または設置工事業者から受け取っていただき「お買い上げ日」など、必要事項が記入されているかお確かめの上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から1年間です。

■修理を依頼されるとき

「おかしいなと思ったら」に従って症状を調べていただき、なお異常がある場合はご使用を中止してください。必ず電源プラグを抜いてから販売店にご依頼ください。

■保証期間中は

保証書の規定に従って販売店が無償で修理させていただきます。

- ① ご氏名、ご住所、電話番号
- ② 製品機種名（品名）型式（本体側面に表示）
- ③ 製造番号（保証書及び本体側面に表示）
- ④ お買い上げ年月日
- ⑤ 保証書の有無
- ⑥ 故障、異常の内容（できるだけ詳しく）
- ⑦ ご訪問のご希望日

■保証期間中でも次の場合は有償修理になる場合があります。

- (1) ご使用上の誤り及び不当な修理や分解、調整、改造による故障及び損傷。
- (2) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガス）など、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）等による故障及び損傷。
- (3) 取扱説明書や本体表示等で禁止を指摘した使用による故障や損傷。
- (4) お買い上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷。
- (5) 保証書に販売店名、印、お買い上げ日の記入がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- (6) 保証書の提示がない場合。
- (7) 一般家庭以外（例：業務用の長時間使用、車両・船舶への搭載）に使用された場合の故障及び損傷。
- (8) 振動の多い特別な場所等への設置による故障。
- (9) お客様の使用方法が原因による故障（例：お手入れ不足による循環ポンプの故障等）

■消耗部品について

消耗部品は保証対象外です。

■お客様の個人情報について

お客様にご記入いただいた個人情報（保証書控）は、保証期間内の無償修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。

■保証期間が過ぎているときは

ご希望により有料で修理させていただきます。

■ご不明な点は

販売店にお問い合わせください。

10. 仕様

商品名	家庭用循環温浴システム「コロナホームLc」
型式	CKL-200S
本体設置場所	浴室内（浴槽コーナー設置専用）
本体外形寸法	高さ 350×幅 310×奥行き 226 (mm) （突起部分含まず）
製品質量	約 7 kg（ろ過材除く）
定格電圧	AC 100 V
定格周波数	50/60 Hz
定格消費電力	850 W
ヒーター消費電力	750 W（加温時）、空焚き監視センサー、温度ヒューズ内臓
浄化システム	トップフィルター、ろ過材、浴水清浄液自動注入
対応のべ入浴人数	4人/日
対応浴槽容量	最大 300 L
消耗品（※1）	トップフィルター、ろ過材、ろ過材ネット、ろ過タンクふたパッキン、浴水清浄液
温度調節範囲	30℃、35～45℃（設定1℃毎）、OFF
安全装置	<ul style="list-style-type: none"> ・循環ポンプ空運転防止機構（水流センサー） ・ヒーター空焚き防止機構（空焚き監視センサー、温度ヒューズ） ・漏電防止装置（漏電保護プラグ）定格感度電流6mA ・過電流防止装置（管ヒューズ15A） ・転倒時安全装置（傾斜センサー）
電源コード	約 7 m
別売品	配管洗浄剤
製造元	コロナ工業株式会社 〒776-8555 徳島県吉野川市鴨島町上浦400-1 TEL：0883-24-1155 FAX：0883-24-8506

■製品仕様は品質改善のため予告なく変更されることがありますのでご了承ください。

※1 消耗品のお買い求めや各種お問い合わせは、販売店までお問い合わせください。

